ACS事業部　Culture Deck

株式会社エーピーコミュニケーションズ

2024.02.21更新

AGENDA

i. 私たちについて
ii. 事業内容
iii. 戦略と実績
iv. チームの情報
v. 組織/人事制度
vi. 福利厚生
vii. 採用プロセス

ACS事業部とは

ACS事業部はNeoSIerの新たなSIモデルとして、

エンタープライズ企業のDX内製化を推進しております。

内製化推進のため、Platform EngineeringやAIを活用し、

セルフサービス化されたSIを確立し提供することで、

日本企業のデジタル化を加速させて参ります。

ACS事業部　責任者挨拶

上林　太洋　Takahiro Kamibayashi
https://www.ap-com.co.jp/blog/archives/9264#article

株式会社エーピーコミュニケーションズ
取締役　兼　ACS事業部長
　日本CTO協会　個人会員
　PMI日本支部　プログラム/ポートフォリオ研究会所属
　InnerSourceCommons　個人会員

趣味は登山、トレイルランニング、キャンプ、車、オーディオ、ゴルフも少々(一応大学ゴルフ部でした)、ワイン好き、トイプードルx2飼ってます。最近はキャンプと山とXGにはまってます。

我々は、NeoSIerをコンセプトに、日本を元気にするため、ITが企業のビジネス価値を生み出すための、新しいモデルのSIの形を作り出すことを目指しています。本事業はその為に、新規事業として立ち上げました。

顧客向けには「アジャイル開発などのITの内製化」、エンジニアやコンサル向けには「技術ドリブンのビジネスモデルの構築」、その二つを軸に、ビジネスを構築しています。

是非、上記のような志に賛同頂けるみなさんと一緒にビジネスを盛り上げたいと考えております。ご興味のある方まずはカジュアルに話しをさせて頂きたいです！

Ⅰ. 私たちについて

会社概要

業界にとっての新しいSIのモデルNeoSIer

APC apcommunications

エーピーコミュニケーションズ（APC）は、お客様のことを真剣に考えられるエンジニアを育成し、熱狂できるキャリアパスを創出し、パフォーマンスを最大化できる環境を創り、従来の慣例に捉われずに工夫と挑戦を行い続けるNeoSIer（ネオエスアイヤー）です。

SIのDX化
攻めのDX/AI内製化・Microsoft Azure

会社名 ： **株式会社エーピーコミュニケーションズ**

URL ： http://www.ap-com.co.jp/

社員数 ： 430名（2023年1月現在）

Microsoft Solutions Partner
Data & AI
Azure

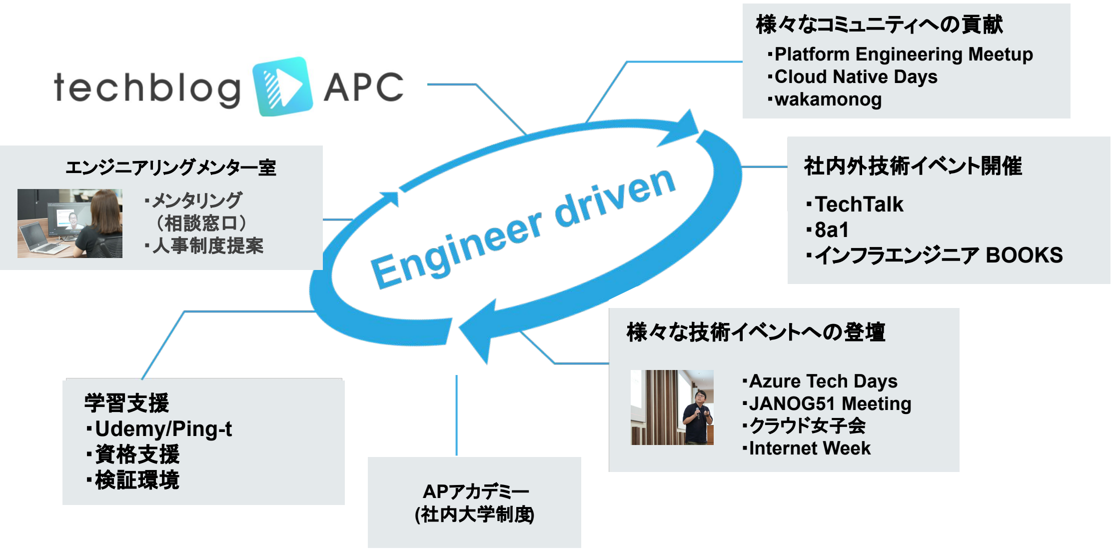
Microsoft Solutions Partner
Infrastructure
Azure

Microsoft Solutions Partner
Digital & App Innovation
Azure
Specialist
DevOps with GitHub

・NeoSIerを掲げ、DX時代に必要なSIモデル変革に挑戦。
DockerEnterpriseを買収したMirantisとのJVを設立。
攻めのDX/AIの内製化、Platform Engineering推進、自社事業のDX化、ネットワーク自動化、SASE(ゼロトラスト)サービス、プライム化など。
・Microsoft様DevOps Specialization、SolutionPartner(3カテゴリ)。

×

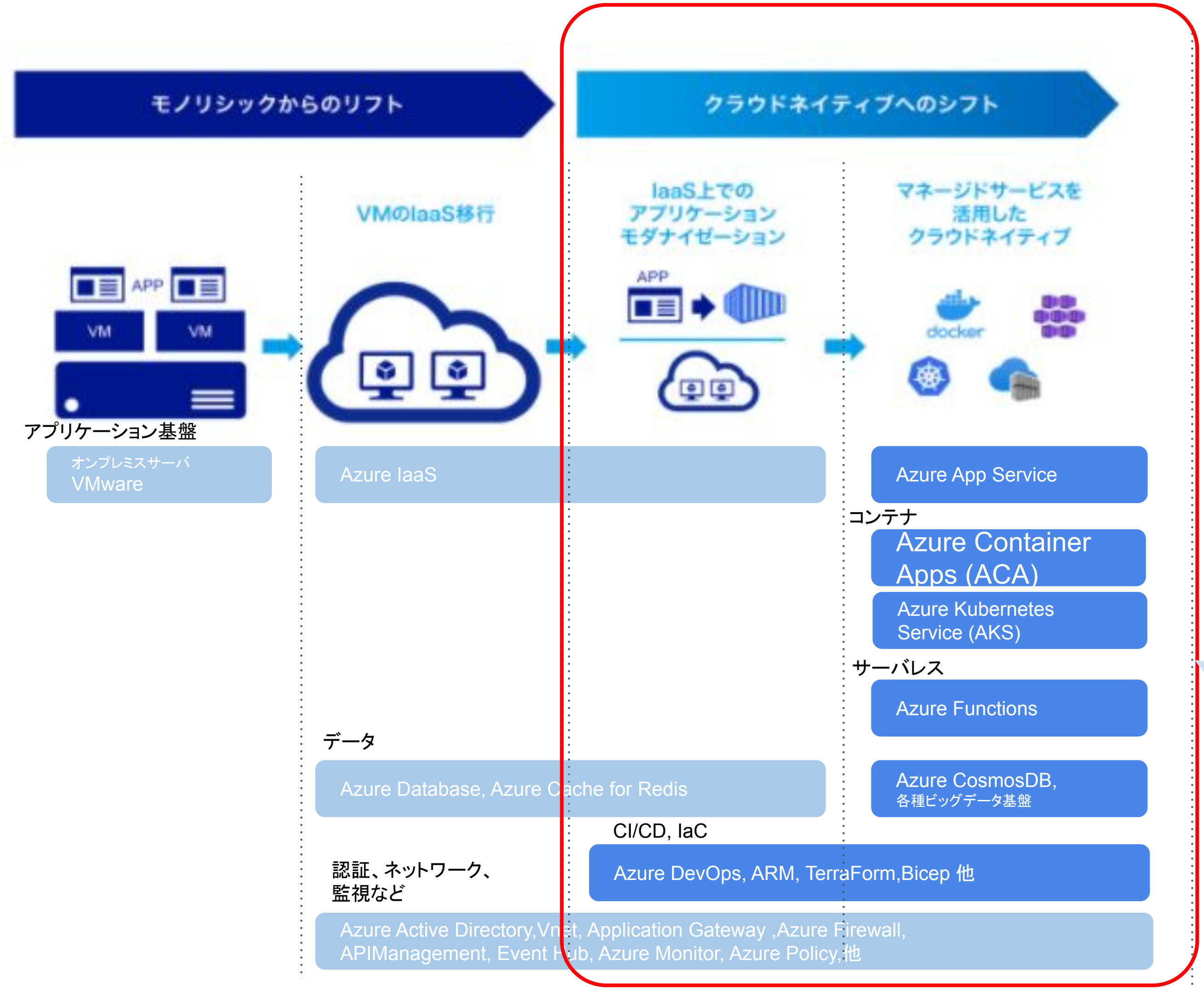
Engineer driven(エンジニア文化の育成)
Azure有資格者100名以上



・コミュニティ登壇・blog・技術イベント・エンジニアメンター制度など、
エンジニア中心の組織文化を構築。
・社内大学制度APアカデミーなども生かし、Azureエンジニアを育成(資格100名　以上)。

ACS事業部　事業概要

Microsoft Azureでのアジャイル内製化を核に エンタープライズ企業の攻めのDX推進を支援



ACS事業部の強みは、Microsoft Azure（以下Azure）をベースにしながらも、市場ではまだ少ない**Azureのクラウドネイティブ技術**の適用を並走支援にて提供することです。

昨今はここにAzureのAI系サービスも組み込まれております。

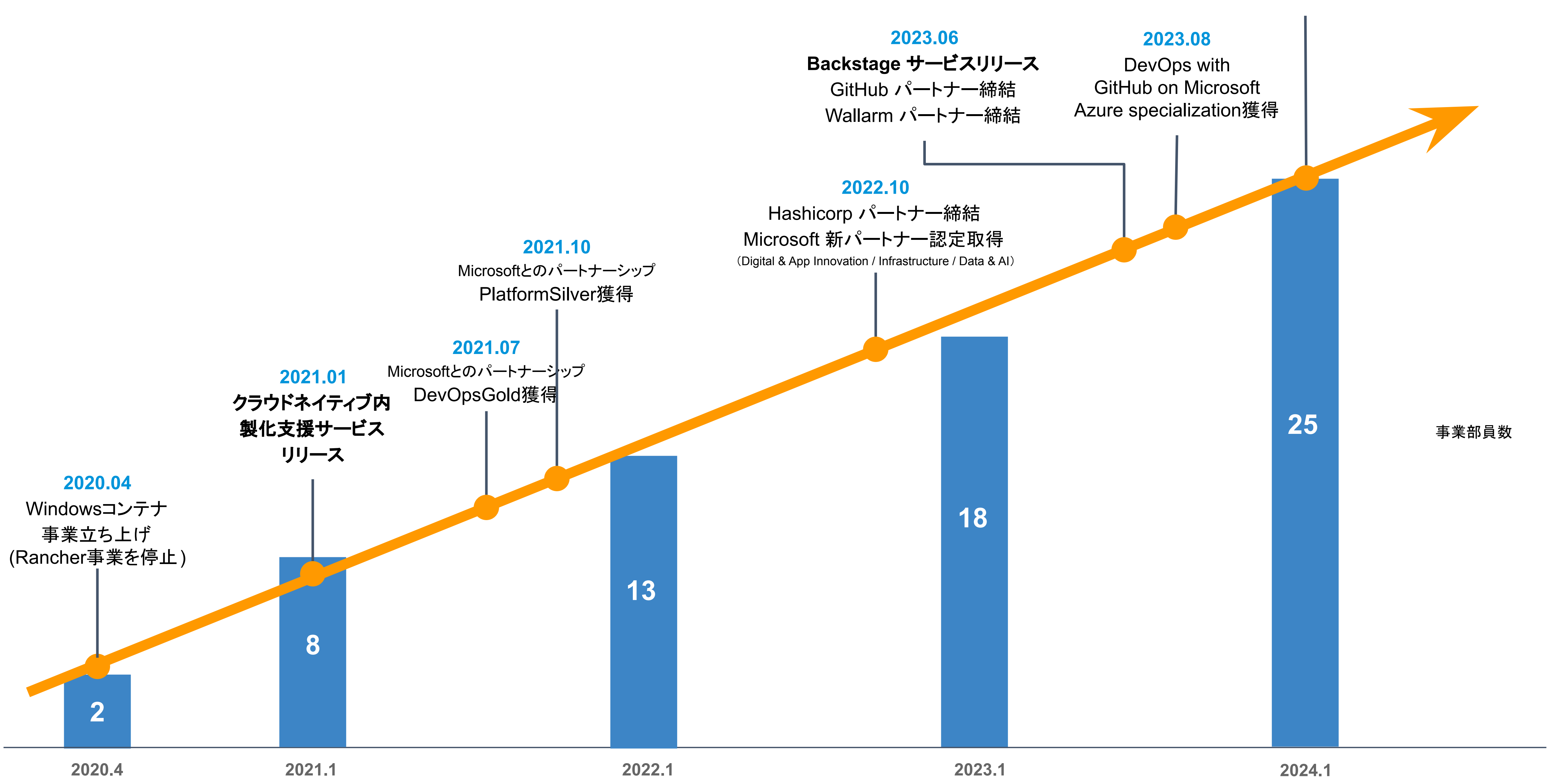
攻めのDXに必要なアジャイルとの親和性が高いクラウドシフト(モダナイズ)アーキテクチャ構築のため、Azureのクラウドネイティブサービスを中心にご支援

ACS事業部　ミッション/パッション

2027年までに、内製化推進のキードライバーとして、
セルフサービス化されたSIを確立し提供することで、
日本企業のデジタル化を加速させる。

インフラエンジニアから**Platform Engineering**へ
日本におけるPlatform Engineering No.1企業を目指す

沿革(2024.1更新)



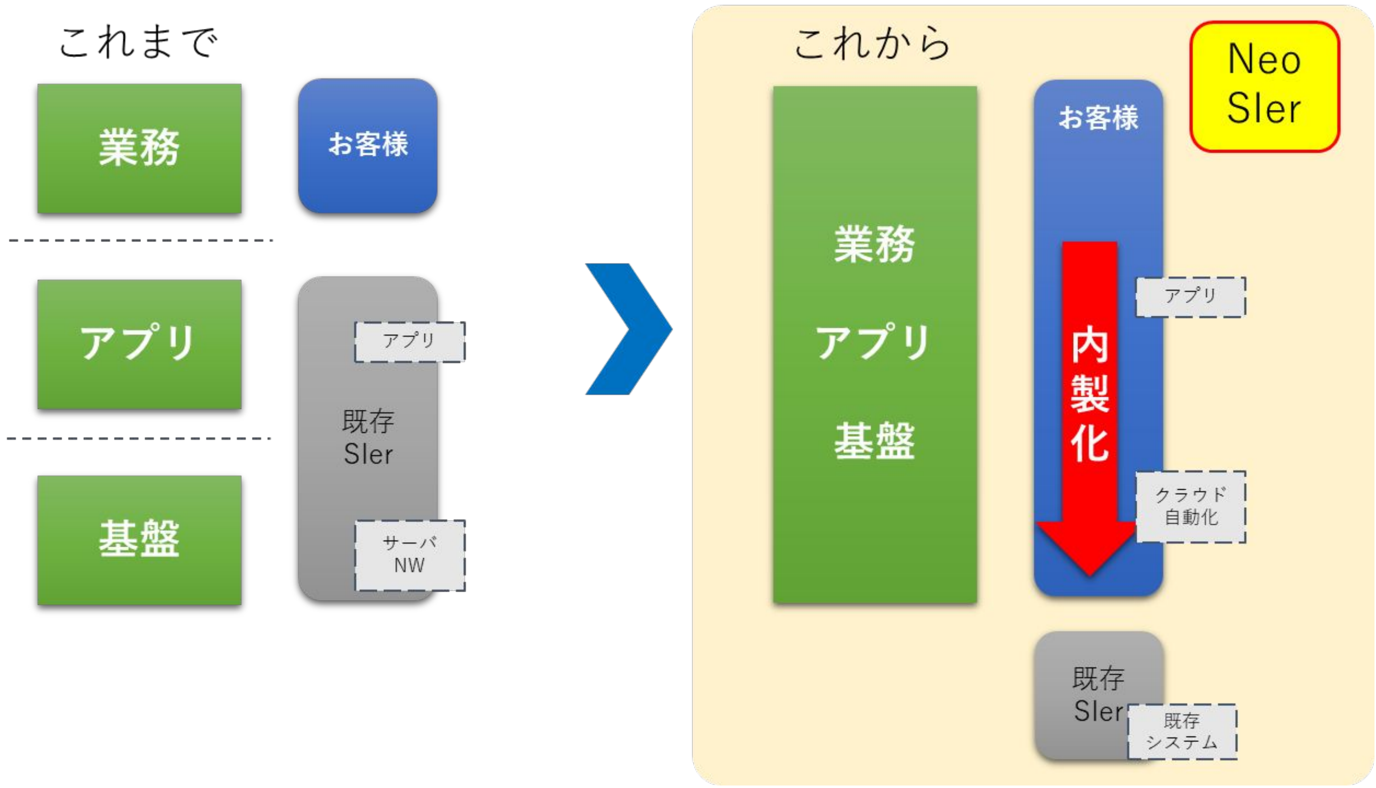
2024.01
PlatformEngineering特設サイトリリース
日経クロステック記事リリース
2023.06
Backstage サービスリリース
GitHub パートナー締結
Wallarm パートナー締結
2023.08
DevOps with
GitHub on Microsoft
Azure specialization獲得
2022.10
Hashicorp パートナー締結
Microsoft 新パートナー認定取得
（Digital & App Innovation / Infrastructure / Data & AI）
2021.10
Microsoftとのパートナーシップ
PlatformSilver獲得
2021.07
Microsoftとのパートナーシップ
DevOpsGold獲得
2021.01
クラウドネイティブ内
製化支援サービス
リリース
2020.04
Windowsコンテナ
事業立ち上げ
(Rancher事業を停止)
2
8
13
18
25
事業部員数
2020.4
2021.1
2022.1
2023.1
2024.1

Ⅱ. 事業内容

APCommunications

お客様にとっての私達の存在意義
新しいパートナーの在り方とは

企業のデジタル化へのシフト、特に攻めのIT投資を成功させるために、システム納品だけ行うSIではなく、新しい支援形態が求められてきています。特に技術の変化により、クラウドネイティブの文脈においては、業務・アプリ・基盤が密結合になることにより、事業会社の **内製化**や**自動化**、**既存SIerとの新たな共同活動の支援** にニーズがあります。



Copyright © AP Communications Co., Ltd. All rights reserved.

このニーズに応えるため、ACS事業部では
「クラウドネイティブ内製化支援サービス
for Microsoft Azure」を
提供しています

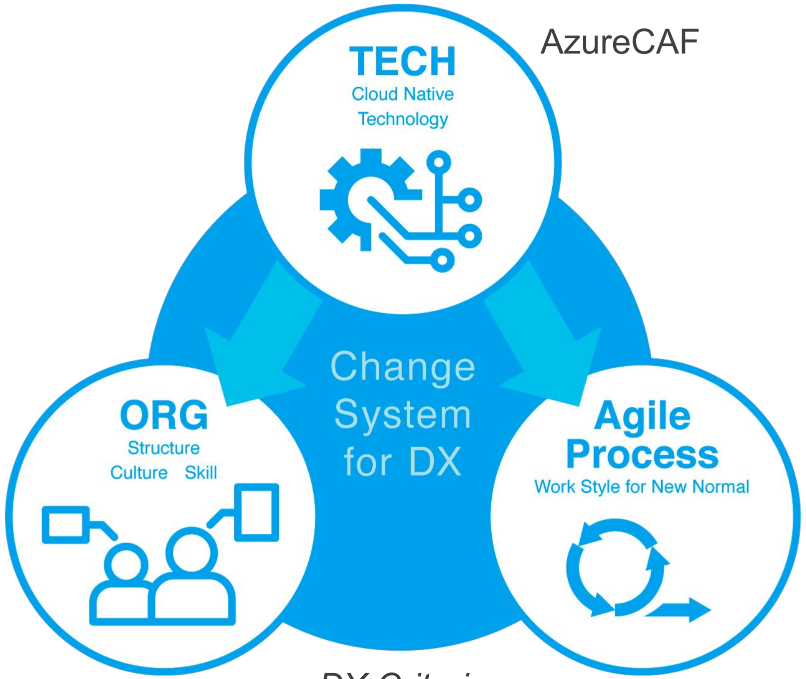
クラウドネイティブ内製化支援サービス for Microsoft Azure　提供価値

私たちは一般的なITコンサルティング/SIではなく、
共に学び、共に成長し、共に成功する、新しいパートナーを目指しています

Microsoft Azureのクラウドネイティブ技術を中心に、関連するアジャイルプロセス、組織モデルの最新知識を学び続け
お客様とチームとなり、デジタル型組織への変革・成長を実現していきます

Cloud Native Architecture

AzureCAF



TeamTopologies

DX Criteria

Platform Enginnering

management3.0

Ⅰ. Technology (Cloud Native Technology)

コンテナ・Azure Kubernetes Serviceを中心とした
クラウドネイティブ技術、自動化技術、データ/AI技術の提供

Ⅱ. Agile Process (Work Style for New Normal)

アジャイル、BizDevOps、CI/CD、**PlatformEngineering**など
新たな開発や運用プロセスに向け既存プロセスの移行・変革を実現

Ⅲ. Organaization (Structure・Culture・Skill)

新しい組織体制・組織文化
スキルセット/マインドセットを獲得

クラウドネイティブ内製化支援サービス for Microsoft Azure　提供プロセス

お客様とチームとなり、
SI、アドバイザリー、技術的支援を段階的に並走で支援
ベンダーロックインを防ぐとともに、高速な開発組織の構築を実現します

関わり方の相談
内製化ゴール設定と
役割分担を行います

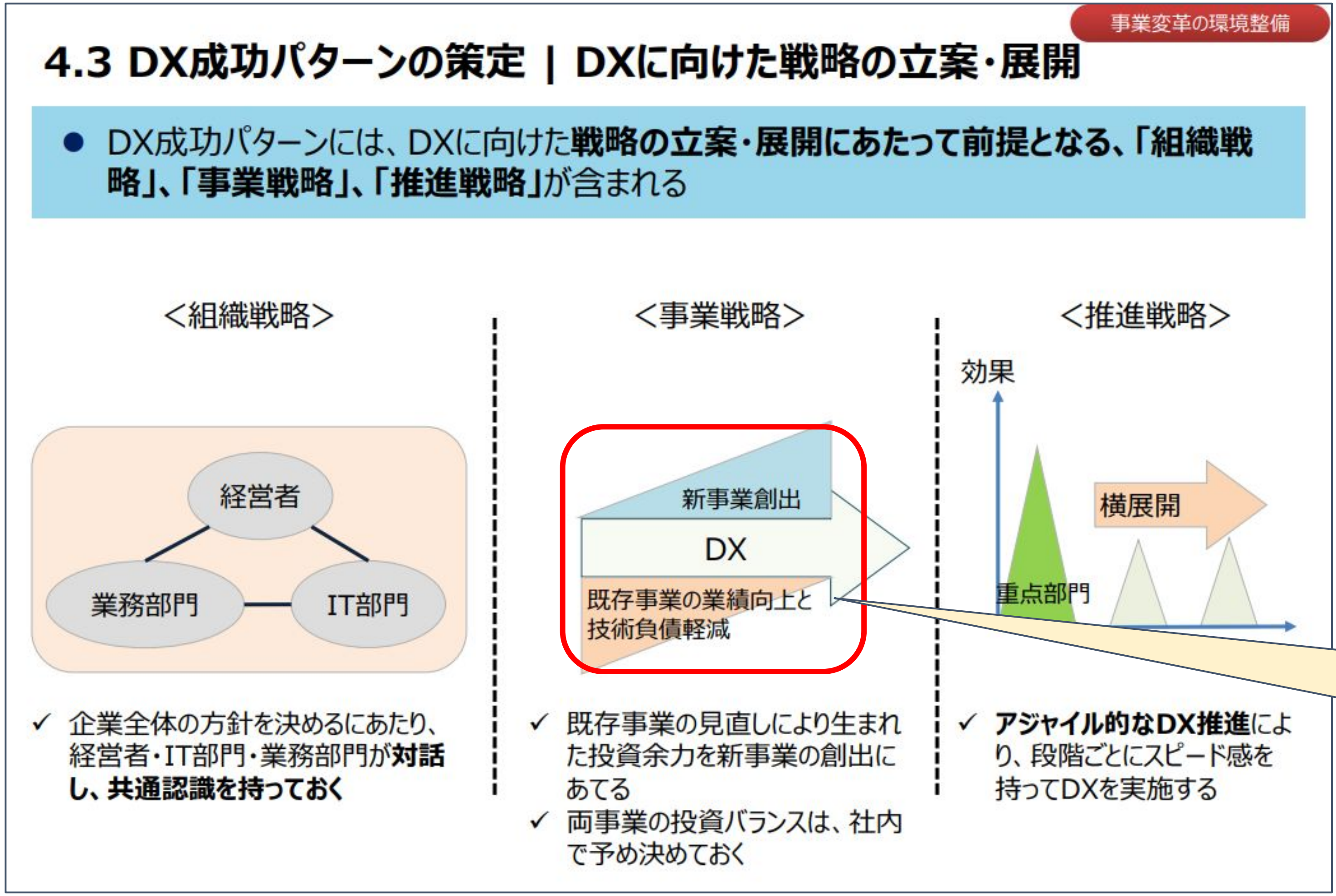
①SI
初期に必要なシステムを
素早く構築支援します

②コンサル・オンボーディング
クラウドネイティブ技術の専門家として、高速なアジャイル開発のチームに必要な技術・手法のノウハウを提供・システムを自動化。立ち上がり時間の削減を行います

③Platform
アジャイル開発チームが価値提供以外に必要な組織ガバナンス・セキュリティ・ナレッジなどの要素を可能な限りセルフサービス型のPlatformに変換し提供します

DX投資領域から見るスコープ

経済産業省のレポートでも「攻めのIT投資」の必要性が謳われていますが、企業は既存システムの負債・人材不足など様々な問題で攻めのIT投資に苦戦しています。
我々は、守りのIT投資から攻めのIT投資へのシフトをお手伝いすることを事業スコープにしています。



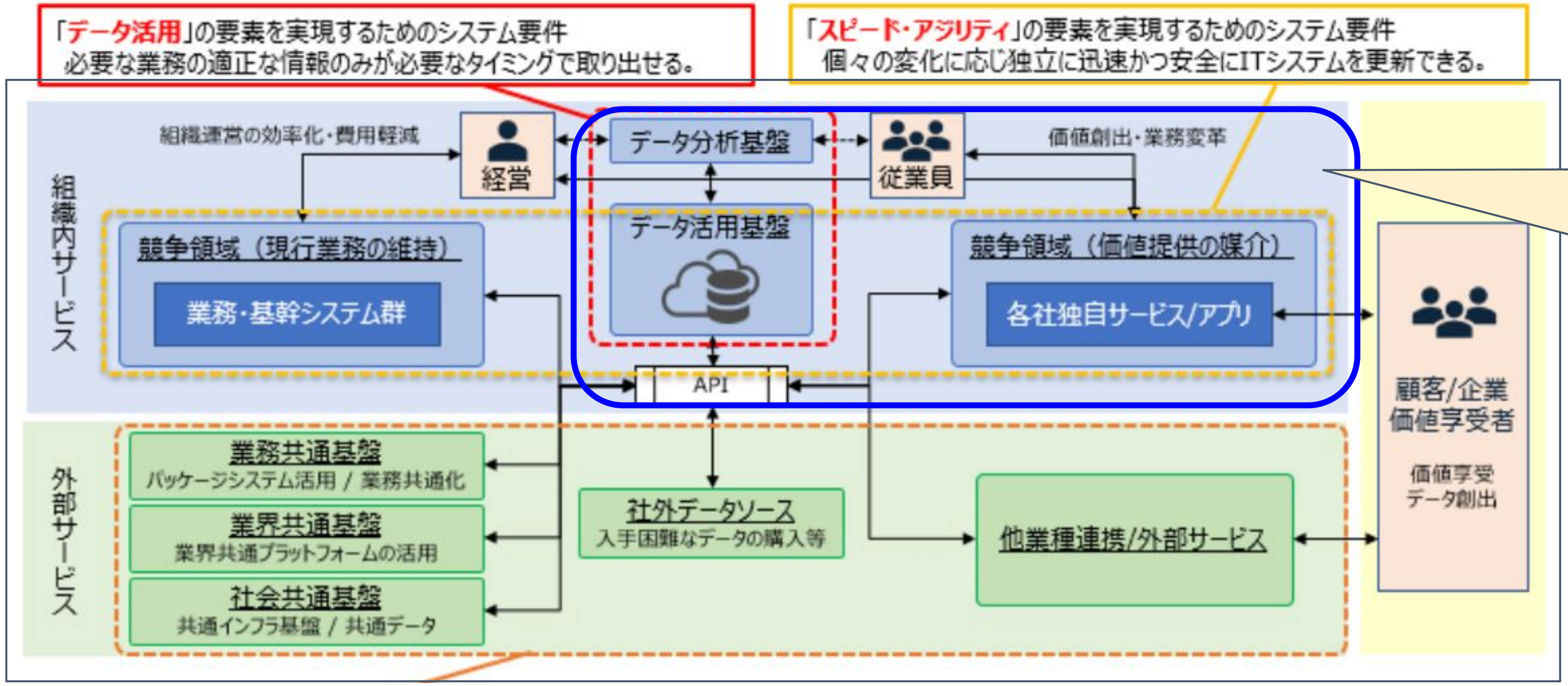
ACS事業部スコープ
既存の自動化を含め、クラウドネイティブ領域へのシフト

出典
経済産業省「DXレポート2」より

システム領域から見るスコープ

ACS事業部は攻めのIT投資の領域として、SoE・SoI領域へのシフトを技術スコープにしています

・**新規事業創出(SoE領域)**：外部環境の変化に対応した俊敏性のある探索的なアプローチによる事業創造
・**既存事業の業績向上(SoI領域)**：既存の業務プロセスのデジタル化・データの活用による事業のデジタル化
・**技術負債軽減(SoR領域)**：既存のIT資産が事業の強みを阻害しないように運営可能とすること



ACS事業部スコープ
クラウドネイティブ
(SoE)領域
データ/AI領域(SoI)
の支援に強み

図：あるべきITシステムの要件 出展：独立行政法人情報処理推進機構 （IPA)「DX実践手引書 ITシステム構築編 完成 第 1.0 版」p75

クラウドネイティブ内製化支援サービス for Microsoft Azure　メニュー

≪2024.01　改訂≫

クラウドネイティブ内製化支援 for Microsoft Azure

クラウドネイティブへのリフトを含めたSI・内製化を提供。技術的にはAKSおよびCI/CDなどその周辺の技術領域に注力します。

技術アドバイザリー(コンサル/SI/運用)

IT内製化支援　　**SIモダナイズ**

①クラウドネイティブ化支援（コンサルティング・アドバイザリー）

弊社クラウドネイティブアーキテクトが、御社の　CTO/CCoE/アーキテクト向けの支援を実施。
採用では補完しづらいスキルセットを持つ弊社のクラウドネイティブアーキテクトが、御社の課題に合わせて、システムや組織のアセスメント・マイルストーン策定・システム全体設計・アジャイル体制構築・組織文化の構築などを並走支援します。

②DXシステム設計構築/支援（SI・アドバイザリー）

ハイスキルなエンジニアが専属でコンテナや　CI/CDなどDX基盤の導入を実現。マイクロサービスアーキテクチャーやAKS/AzureDevOpsの利用など、モダンなシステムの全体アーキテクチャー設計・構築を納品型・支援型を組み合わせ実現します。
Windows/Linux上にある既存のアプリケーション資産については、オンプレ・クラウド環境へのコンテナ化　/マイクロサービス化を実現します。

③Platform Engineering推進支援（システムの運用支援）

DevOpsチームの開発者体験の向上と DX開発組織拡大の為のPlatform Engineeringの支援サービス
開発者Platform構築の為の Platformチームの立ち上げとPlatformの設計・構築・運用を支援。必要に応じて体制のアウトソース・内製化支援も実施します。 Platformとしては、コンテナ・CI/CD基盤・各種 DevOpsツール・ドキュメントなど、開発者の認知負荷削減の為の各種システム・ツールを提供します。

④実践型クラウドネイティブトレーニング(教育/リスキリング)

個社向けにコンテナや CI/CDなどのトレーニング実施。コンテナ・AKS・CI/CDの実現に必要な技術スキルセットを体系的に学びます。技術スキルセットだけでなく、クラウドネイティブに必要な組織論・マインドセットを含めたトレーニングも提供します。個社の状況に合わせて、コンテンツ個別カスタマイズを可能としている点が特徴です。

運用(自動化含む)　　**リスキリング/教育**

クラウド/ツール

開発者ポータル立ち上げサービス for Backstage

Spotify社がCNCFに寄贈したOSS：BackStageを中心とした開発者ポータルをご提供します。 AIやクラウドネイティブツールを組み合わせてセルフサービス化し、開発組織の認知負荷低減と、エンジニア体験向上を実現します。

各種スターターキット

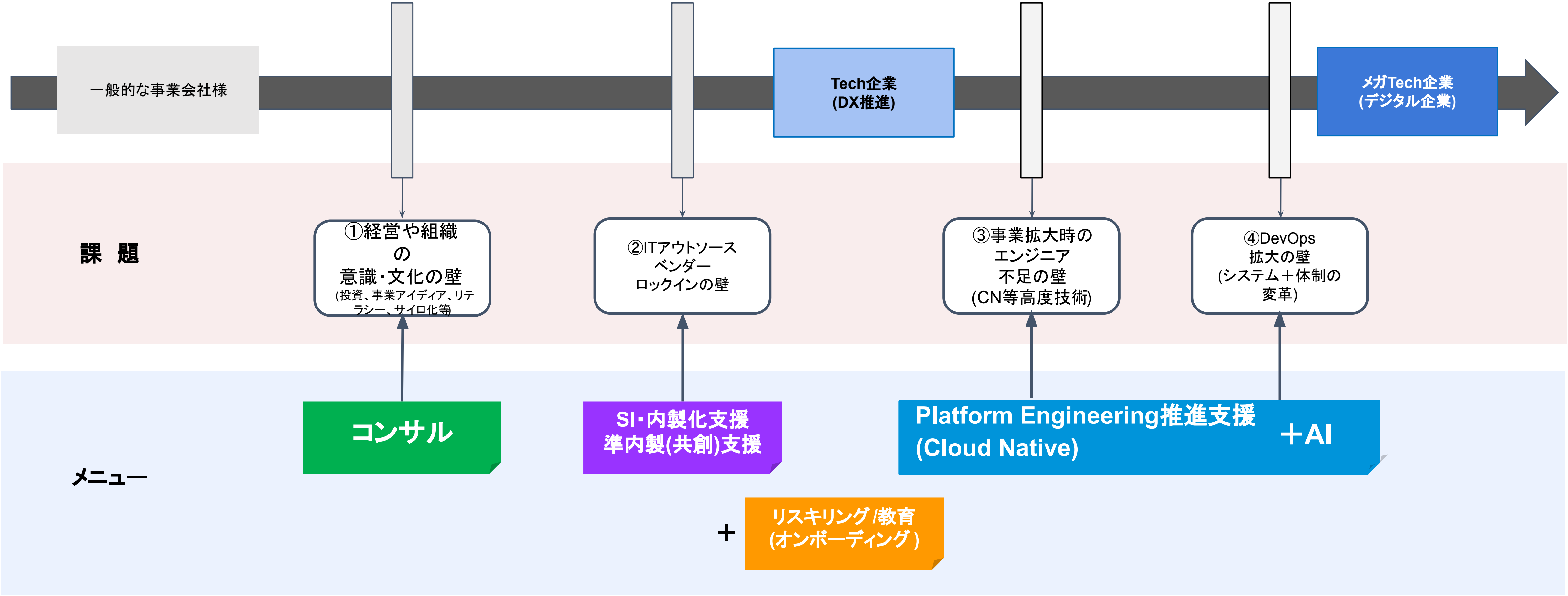
理解しづらいクラウドネイティブ環境を体感して頂くため、数コマンドで構成可能なシステムのひな形を提供します。 Azureリソース、IaCファイル、サンプルデータスキーマ＆データ、アプリケーションコード等が含まれています。
PoCへの移行、本番環境への拡張などへの拡張も想定。並走コンサルやサポートを併用も可能です。
*MicroSoft様LandingZoneより更にスモールな構成です。

CSPでのAzure環境提供

CSP（Cloud Solution Provider）としてAzure製品をご提供します。Azure利用金額の請求に加え販売代理店の強みを活かした各種付加価値をご提供します。

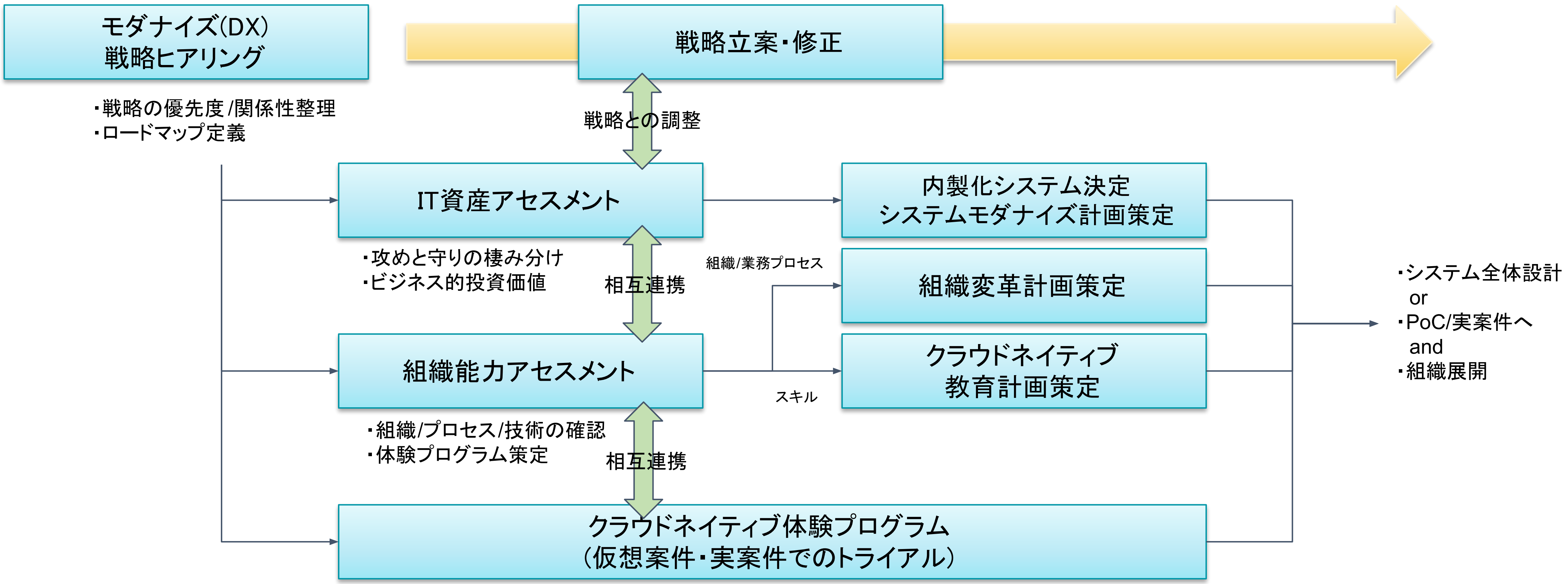
DX推進課題のマイルストーンから見た支援メニュー

一般的な事業会社の皆様が、事業のDX化に向けて組織やシステムを変革していく際のハードルとなる壁を課題と設定し、弊社サービスにて解決、DX開発と組織拡大の加速を支援します。



メニュー①「クラウドネイティブ化支援（コンサルティング）」

攻めのDXを達成するために、DX全体の戦略策定の段階からコンサルティングを実施しております。
戦略の実行段階では、既存IT資産のモダナイズ・クラウドネイティブ人材の育成や組織改革まで幅広くご支援させて頂きます。



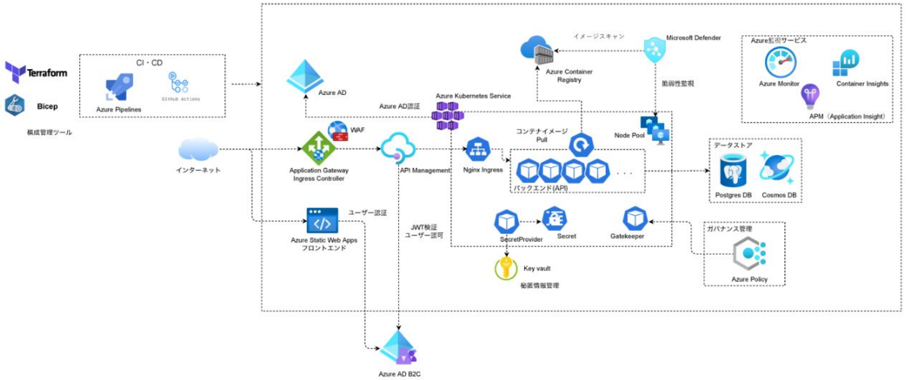
例：DX戦略策定の流れ　IT資産・組織アセスメントなどを通じて実効性のある戦略立案をご支援いたします

メニュー②「DXシステム設計構築/支援」

Azure Container AppsやAzure Kubernetes Serviceなどのコンテナオーケストレーションサービスを活用したモダンなマイクロサービスアーキテクチャー基盤の構築やSoE向けのアプリケーションをアジャイル開発で支援。AWSやGCPからのマイグレーションやオンプレからのモダナイゼーション、データウェアハウスに代表されるAnalytics Platformの実装やAzure AIサービスの活用などもサポート。

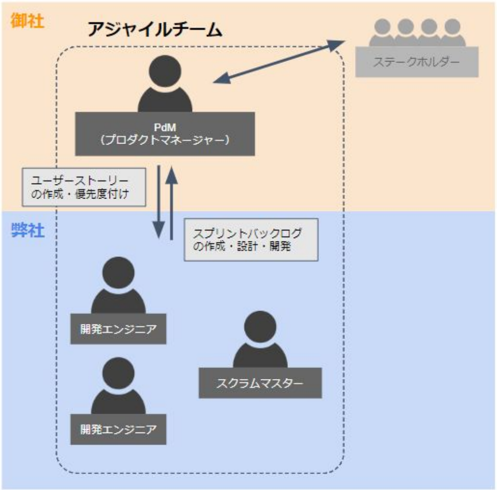
プラットフォーム向けの構築サービス

➢ マイクロサービス基盤構築支援
➢ クラウドネイティブマイグレーション
➢ クラウドネイティブモダナイゼーション
➢ DevOpsプラットフォーム構築支援
➢ 機械学習/AI 実装・運用自動化支援



アプリケーション開発向けサービス

➢ 共創型アジャイル*SI支援
  ○ SoE向けアプリケーション開発
  ○ アジャイルメトリクス分析によるプロダクト改善
  ○ クラウドネイティブモダナイゼーション
  ○ CI/CD/CTオートメーション
  ○ GitHub Copilotを用いた開発支援



メニュー③「Platform Engineering推進支援」

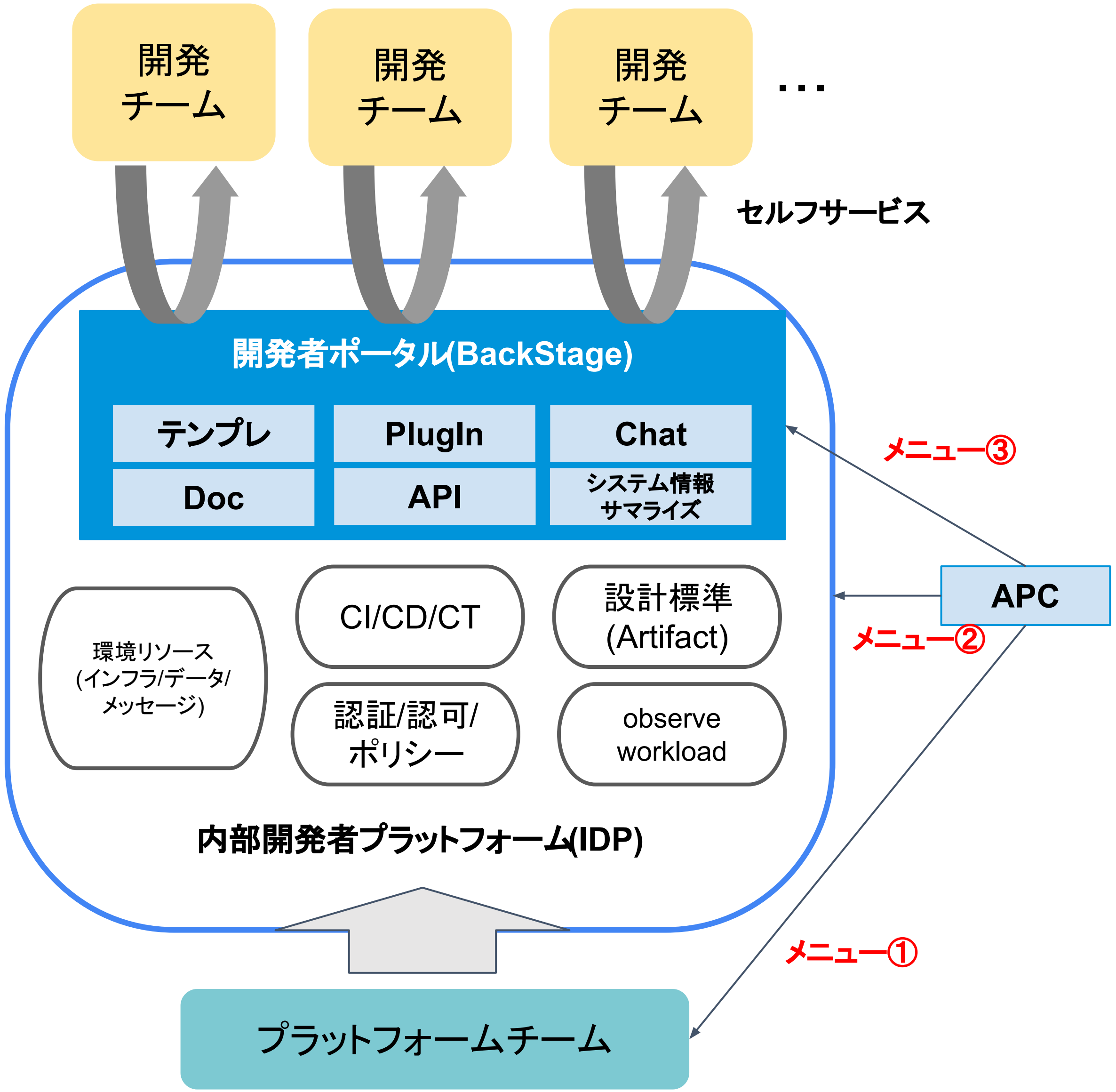
認知負荷の削減と開発者体験の向上

モダンで高速な開発に必要な、スキル/ツール/知識/標準/ポリシーなどを抽象化し、開発チームの誰もがクラウドネイティブの価値を享受しやすくする環境を構築。結果、開発組織のスケールとインフラチームの体制削減にも貢献します。

開発者ポータルBackstageを中心としたメニュー

PlatformEngineeringに必要な各種リソースを**開発者ポータル**に載せる**各種コンテンツとセット**で提供します。

①Platformチーム体制立ち上げ支援
②内部開発Platform導入支援
（コンテナ、CI/CD、DevOpsツール、等）
③開発者ポータル立ち上げ支援/コンテンツ提供・保守
（初期構築、PlugIn提供、Plugin開発、テンプレート、オンボーディングドキュメント、メンテナンス）



メニュー④「実践型クラウドネイティブトレーニング」

コンテナ・Kubernetes・CI/CDなどクラウドネイティブなシステムを理解するために必要なスキルセットを体系的に学べるトレーニングを提供。技術スキルセットだけでなく、クラウドネイティブに必要な組織論・マインドセットなども提供。
ハンズオン中心が特徴であり、個社の状況に合わせてコンテンツ個別カスタマイズなども対応。

実践型クラウドネイティブトレーニング
1日～2日間で開催する講義＋ハンズオン形式のトレーニング

作って学ぶクラウドネイティブ実践プログラム
数ヶ月の長期に渡り行うチーム受講での課題解決型トレーニング

ハッカソン型トレーニング
お客様と弊社ででチームを構成し、オンサイトでプロトタイプ環境を作り上げる短期集中型トレーニング

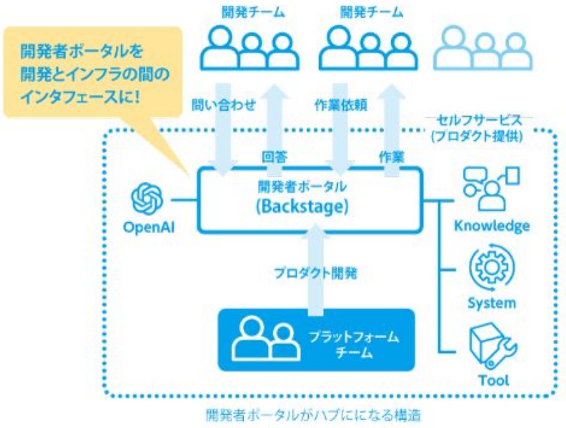
共通		Azure実践技術		
		初級	中級	上級
Management 3.0 リリース調整中 Mangement 3.0とは従業員を幸せにするためにオランダ出身ヨーガン アペロ（Jurgen Appelo）の世界80ヶ国で展開している新しいイノベーションとリーダーシップそしてマネジメント運動です。リーダーシップの定義をあらため、マネジメントをグループの責任とします。自己組織化により高い内発的動機付けが可能になり、従業員の満足度が向上します。Management3.0は、従業員の満足と組織目標を同時に達成するもっとも効率の良い方法とされています。これはフレームワークや方法論や具体的な活動で定義されるものではなく、組織システムについてのひとつの見方であり、「正しいことをしている」状態とされます。 対象者：DevOps組織に関る全ての方 期間：2日 価格：応相談	**Team Topologies 基礎編** アジャイル開発やDevOpsの実現の為の組織の在り方や連携の仕方を説明した「Team Topologies」の基礎について座学で学ぶ講座です。 ウォータフォール型のシステムの前提となる組織構造が内包している課題を学ぶとともに、アジャイル開発に必要な組織形態、役割分担、連携方法などを学びます。アジャイル開発チームだけでなく、組織全体のDXを推進する組織の全員が共通言語として学習することで、組織全体のリテラシーを高め、あるべき組織設計や運用設計に向けて議論を活発化させることで、実践に向けた土台を作ります。 対象者：経営者・管理職 期間：1日 価格：応相談	**Microsoft Azure管理者向けBasicトレーニング** Microsoft Azureの環境を組織で利用する際、Microsoft Azureの管理者として実装、管理、監視を行うために必要となる基本的な概念を学習します。 対象者：Microsoft Azureの未経験者、初学者 難易度：★ 期間：1日 価格：¥100,000~/人	**Terraform Cloudで学ぶIaC入門 for Microsoft Azure** Terraformはインフラプロビジョニングを管理できる代表的IaCツールです。Terraformを利用し、Microsoft Azureのインフラ環境をコード管理、デプロイを自動化する手法をハンズオン形式で学習します。 対象者：IaCに興味のある方、Microsoft AzureでIaCの導入検討されている方 難易度：★★ 期間：1日 価格：¥100,000~/人	**Azure Kubernetes Service(AKS) Design Training** 開発中 Kubernetesの基本知識がある方を対象に、Azure Kubernetes Service（以下AKS）の構築・運用実績のあるエンジニアが知見に基づくベストプラクティスやAKSならではの特徴を解説していきます。 - Azure Kubernetes Service Cluster Design - Azure Kubernetes Service - Network Design - Azure Kubernetes Service - Access & ID & Security Design - Azure Kubernetes Service - Monitor Design - Azure Kubernetes Service - CI/CD Design - Azure Kubernetes Service - Service Mesh Design 対象者：Azure Kubernetes Serviceの管理者、Azure Kubernetes Serviceを使った開発を行われる方 難易度：★★★ 期間：未定 価格：応相談
Microsoft Azureで学ぶDocker Kubernetesトレーニング コンテナの基礎となるDocker、複数コンテナのコントロールを可能とするDocker Compose、コンテナオーケストレーションを提供するKubernetesを座学で、マニフェストファイルを管理するHelmをハンズオンで体系的に学び、クラウドネイティブの基礎技術を習得します。 対象者：Docker/Kubernetesをこれから学び始める方 難易度：★★ 期間：2日 価格：¥150,000~/人		**App Serviceで学ぶクラウドネイティブ開発入門** Microsoft Azureの代表的なPaaS「App Service」でWebアプリケーションをホストする方法を学習します。App Serviceにはクラウドネイティブな機能が多数実装されているため、初学者の方でも取り組みやすい入門編コースとなっています。 対象者：Microsoft Azureでクラウドネイティブ開発を行う初学者 難易度：★ 期間：1日 価格：¥100,000~/人	**Azure DevOps / GitHub Actionsで学ぶCI・CD基本入門** Azure DevOps（GitHub）にはDevOps開発における計画、開発、配信、運用の全てのフェーズで必要なサービスが揃っています。Azure DevOps（GitHub）を利用してクラウドネイティブな開発スタイルを学習すると共に、継続的インテグレーション（CI）、継続的デリバリー（CD）の仕組みをハンズオン形式で学習します。本コースはAzure DevOpsの題材をGithubとGitHub Actionsに変更することも可能です。 対象者：DevOpsに興味のある方、Microsoft AzureでCI/CDの導入検討されている方 難易度：★★ 期間：1日 価格：¥100,000~/人	

その他メニュー「クラウド/ツール」

役務だけの支援ではなく、お客様の開発チームと内製化を下支えするための各プラットフォームを提供する。
注目のBackstageをベースとした開発者ポータルや、IaCのテンプレート集、Azure　のCSPやクラウドネイティブと親和性の高いベンダープロダクトを組み合わせて提供することが、新しい付加価値をお客様へ提供する。

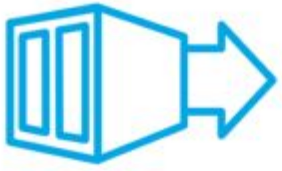
開発者ポータル Backstage

Platform Engineeringを組織内で
実現するために必要な開発者ポータル
をサービス提供

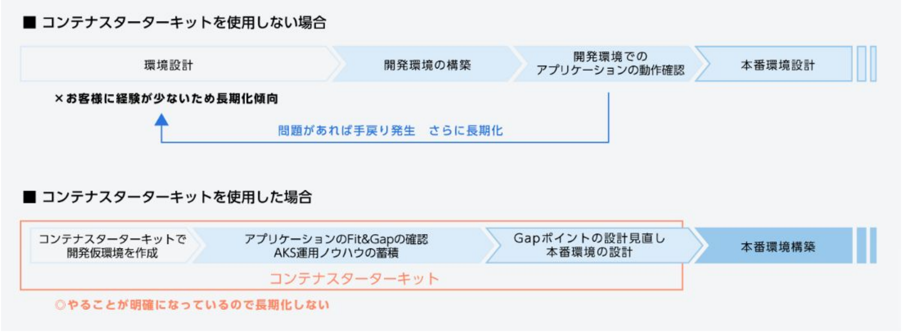


コンテナスターターキット

開発者の負担軽減とSIの効率化を実現するベストプラクティスが
詰まったIaCテンプレート集



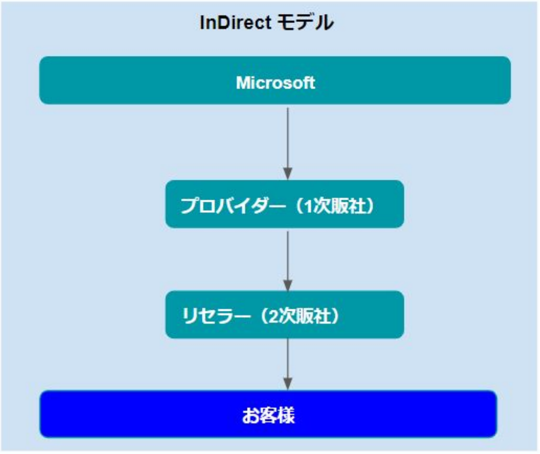
HashiCorp Terraform



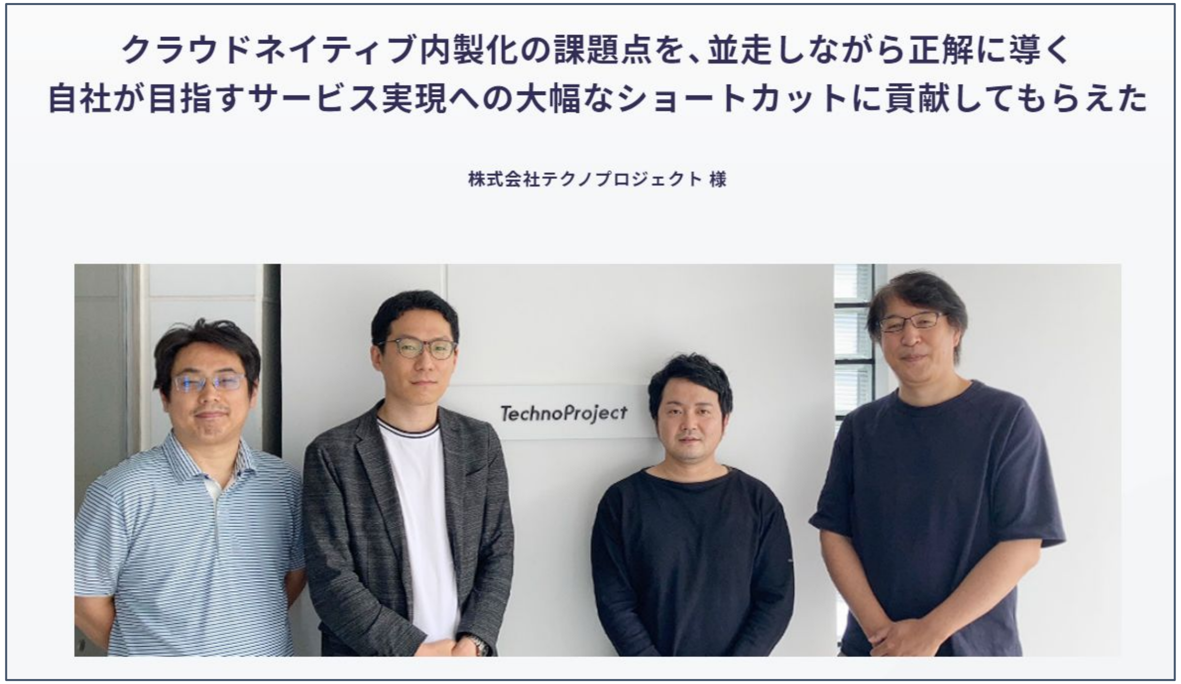
Microsoft AzureのCSP提供

Microsoft Azureのサブスクリプションの月額請求と
独自の運用サービスによる付加価値

CSP



案件の事例とお客様の声



内製化コンサル事例：遠鉄システムサービス様

クラウドネイティブ技術支援事例：テクノプロジェクト様

Ⅲ. 戦略と実績

なぜMicrosoftパートナーなのか？　なぜAzureなのか？

我々は理想を実現するための、戦略的な判断でMicrosoft Azureを選んでいます

1 ユーザ企業の攻めのDXの選択肢としてのAzureの強み

日本を元気にするためには、日本の既存大手企業が攻めのDXを本格させる必要がある。大手企業はMicrosoft365、Azure AD、TeamsなどMicrosoft製品の浸透率が高く、既存データやプロセスとの連携も比較的しやすい。なお、グローバルでのAzureの成長率は近年AWSを超えている。特に昨今OpenAIの分野で、大きく差別化を図っている面も強み。

2 Microsoft × クラウドネイティブの領域の企業は少なく、パートナーシップを相互補完

マイクロソフト様は歴史的にOSS関連のソリューションパートナーが少なく、そこを強みとする弊社は補完関係にあり、戦略的にマイクロソフト様連携が可能なポジションにある。

3 Microsoftはクラウドネイティブに開発リソースを注力

k8sやPlatform Engineeringを推進するためのKEDA・DAPR・Radius等のOSSを発表し、コミュニティ活動を推進。そういった活動をACAというAzureのコンテナサービスに取り入れるなど投資姿勢がある。またGithubを買収し、こちらにも継続的に開発リソースを投入している。

Platform Engineering関連パートナーシップの拡大

パブリッククラウドのソリューションのみならず、Platform Engineeringに関する様々な
ソリューションと組み合わせてお客様に提供することで、さらなる付加価値をお客様に提供

HashiCorp

ソリューション：Terraform Cloud/Enterprise, Vault Enterprise , Consul …
クラウドインフラのプロビジョニング・保護・接続などの自動化や開発コスト削減を目的とした
プロダクト。後述するプラットフォームエンジニアとの相性がよい。
世界中の開発者からも人気の高いソリューションが多い。

GitHub

ソリューション：GitHub Enterprise , GitHub Advanced Security , GitHub Copilotなど
コードリポジトリのみならず、セキュリティ対策やAIによるコード補完、仮想開発環境の提供など開発者にとって
なくなてならないものに。
日本で数社しかいないサービスパートナーとして、導入だけでなく公式トレーニングも提供可能。

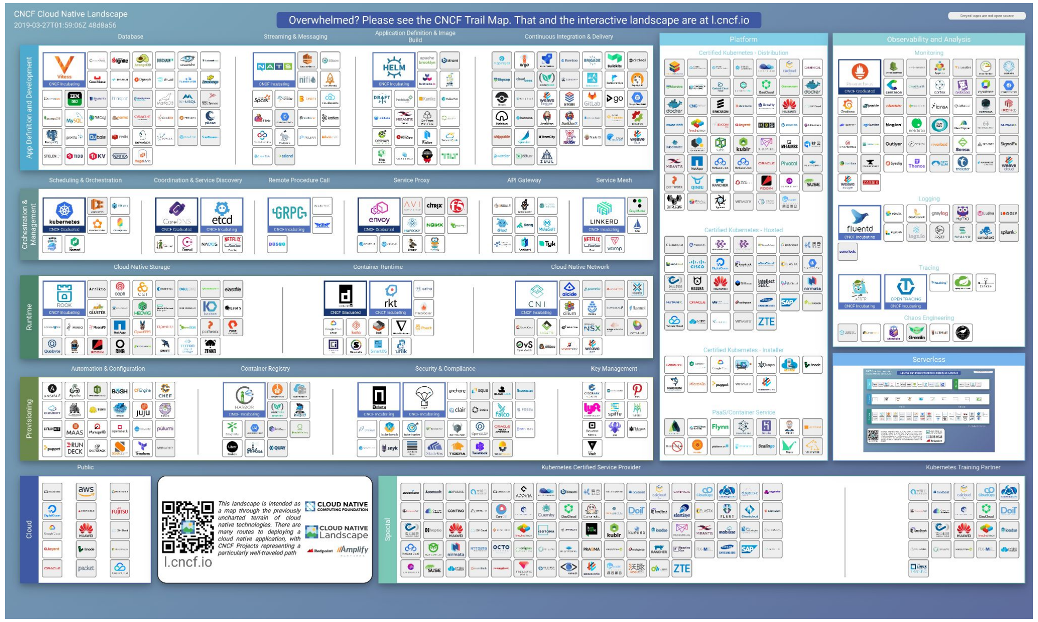
wallarm cloudcasa by Catalogic cast

ソリューション：次世代WAF（API）、k8s Backup 、k8s CostOptimization
k8sのグローバルイベントであるKubeConなどに参加し、クラウドネイティブと親和性の高い
最先端のソリューションを提供する企業とパートナーシップを推進。
Wallarm , cloudcasaはどちらも日本初のリセールパートナー。

新たな技術への取り組み・メニュー

お客様への提供価値とエンジニアとしての喜びを両立する

クラウドネイティブな技術スタックや、既に膨大な数に達しておりそれぞれが目まぐるしいスピードで成長しています。
また、AIの台頭など世の中で必要となるムーブも移り変わっていきます。
我々は、エンジニアとして常に最先端の技術のキャッチアップし、それをお客様に展開することで、技術の専門家として技術の価値の最大化を享受していただけるようにすることがミッションです。



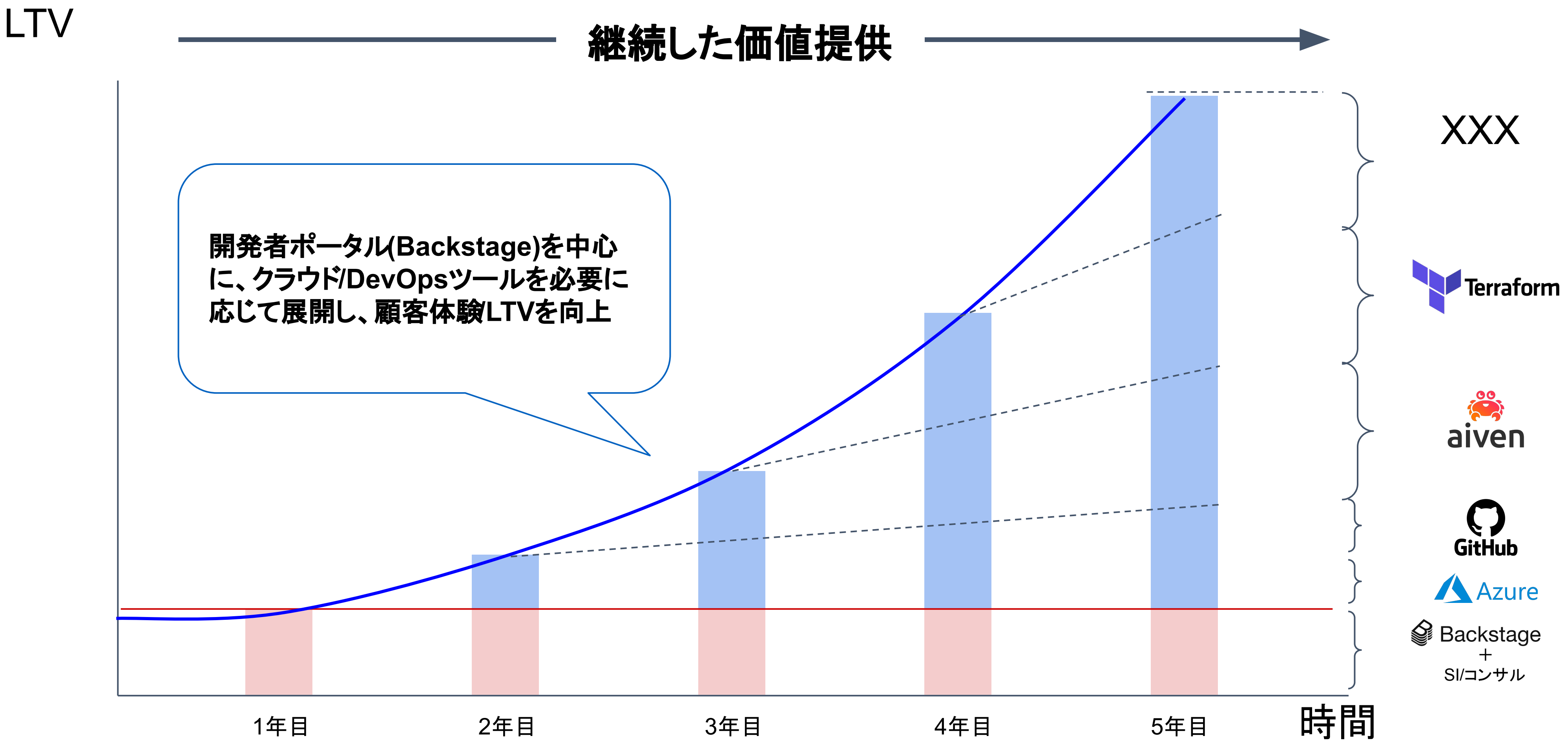
引用：CNCF CLOUD NATIVE LANDSCAPE
（エコシステム群）

ChatGPT普及から<u>わずか数ヶ月</u>で以下を実施

- Azure OpenAI Service導入サービスをリリース
- GitHub Copilotを開発委託業務内で利用
- 開発者ポータル付加機能の開発
- 社内でのAI活用ガイドラインの整理と利用促進
- Microsoft主催のパートナープログラムに賛同

Platform Engineeringを中心にした技術・ツールのビジネス展開

このように、SoE・SoI領域に関わる新たな技術を、Platform Engineeringを中心にビジネスに展開することで、顧客の体験価値(LTV)の最大化を図っていきます。



コラム：クラウドネイティブやPlatform Engineeringを選ぶ理由

エンジニアのキャリアにとって面白いSIを（Engineer Driven）

エンジニアのキャリアにとって、「SIと自社サービス、どちらが良い？」という
質問をされた経験が複数あり、エンジニアとも様々な観点で議論をしてきた経験があります。

もちろんどちらにも良い面があり、最終的に答えは人それぞれですが、
ここでは自分が感じるSIだからこそ実現できるエンジニアにとっての面白さの話を少々させてください

技術はツールであり、顧客価値実現のために場合によっては
技術以外の選択肢も必要です(それが正しくもあります)

とはいえ、SIerとしてEngineer Drivenを掲げる弊社では
あえて技術に拘り、そこを起点に顧客価値を最大化していくことを目指しています

技術とその専門性がメインの武器であることに拘り
エンジニアが技術を探し出し・選び・研ぎ澄まし、ビジネスにしていく
その過程をチームで実現していくことが、楽しく・エキサイティングと考えるからです

クラウドネイティブやPlatform Engineeringを中心に技術やツールの可能性を広げるのも
その深く広い海を探索するのが「楽しいから」という思いがあります

技術は顧客課題を解決するツールでしかないのも事実でありますし、楽しいだけでもビジネスにはなりません
とはいえ、エンジニアの為にも、上記の思想をプラットフォームのようにして体現できるビジネスモデルを
確立・発展させていきたいと考えています。

Ⅳ. チームの情報

運営方針と実施内容

Management3.0の考え方をベースに、自己組織化・内発的動機づけを意識した組織の設計と運営を行います。
具体的なポリシーと手法の例は以下です(※常にアップデートが行われます)

・**価値観**:価値観を重視し、性善説に基づき可能な限り価値観ベースで運営を行っていく
実施内容:価値観を共有し、定期的に皆で振り返りを行う(次ページ)

・**野心的な目標(全社として推進)**:自分たちが想像できる、先を目指し、創造性を高める。
実施内容:OKRの運用

・**心理的安全性(全社として推進)**:心理的安全性を高め、言いづらいことも言いやすく(建設的な意見・邪魔しない)、事業の成功確率を高める
実施内容:Management3.0のワーク、WellDayの運用アンケート、対話会

・**技術ドリブン**:技術は顧客課題を解決するツールだが、技術に対し常に貪欲に可能性を広げるエンジニア集団を目指す
実施内容:インプットやアウトプットの時間を2-3割、業務に時間に組み込める運営を目標

・**StreamAlignedTeam**:自己完結できる主体的なチーム運営体制
実施内容:チームとしてメニューの立案から顧客提供までを完遂するStreamAlignedTeam体制

・**PlatformTeam**:手続きなどやナレッジ、立ち上がりの為の教育など、セルフサービス化を推進し、認知負荷を低減する
実施内容:上記をミッションとするPlatformチームを設立、参入者のオンボーディングプログラミングの構築など

・**学習する組織**:振り返りを重視し、それぞれが学び良くしていく。それぞれが高めあう組織。
実施内容:四半期や案件ごとのKPTの実施

チームで大切にする価値観

事業部には、ジョインするメンバー全員が尊重する価値観を設け、これらを行動指針として掲げている。
マイクロマネジメントは行わない一方、これら価値観を常に意識した行動がメンバーには求められる。
四半期ごとにこれらの価値観に対してどうアクションできたか、見直す点がないかの振り返りも行う。

INSIDE APC
チームの価値観　キーワードは「自律・変化・成長・学習」[エンジニア座談会 後編]

コラム：技術のインプットとアウトプットの時間に関するポリシー

業務の2-3割をインプットやアウトプットの時間にすることを目指す

世間ではSIは、エンジニアやコンサルタント各個人が自力で学習した知識を
消費するビジネスモデルと言う方もいます。意見の真偽はさておき、
自分自身「納品と言うリスクの中で新しい技術を使いづらい」
「人月ビジネスの中で学習に時間を当てづらい」と感じてきました。

その状況を打破し、EngineerDrivenの理想を実現するために、
事業としてエンジニアが技術に向き合える時間を明示的に確保することが重要だと考えています。
その為、ACS事業部では**業務時間の2〜3割**を、その時間にあてることを指針として示しています。
常に新しい技術や情報をインプットし、お客様と共に学び、学びなおし、
チームとしてアウトプットしていくことを推奨し、支援するための指針です。

これからの時代、会社組織は、組織が主、従業員が従という関係は変化していくと考えています。
社員が自己実現の為に利用可能な枠組み、Platformのようになっていくのが理想です。
上記の業務時間の指針が枠組みとなり、その時間で発生するアウトプットが、
自分たちの資産としてPlatformのコンテンツになる。
そんな循環を支えるチームとPlatformを、チームメンバーと一緒に育てていきたいと考えています。

技術のアウトプット例①：技術blog

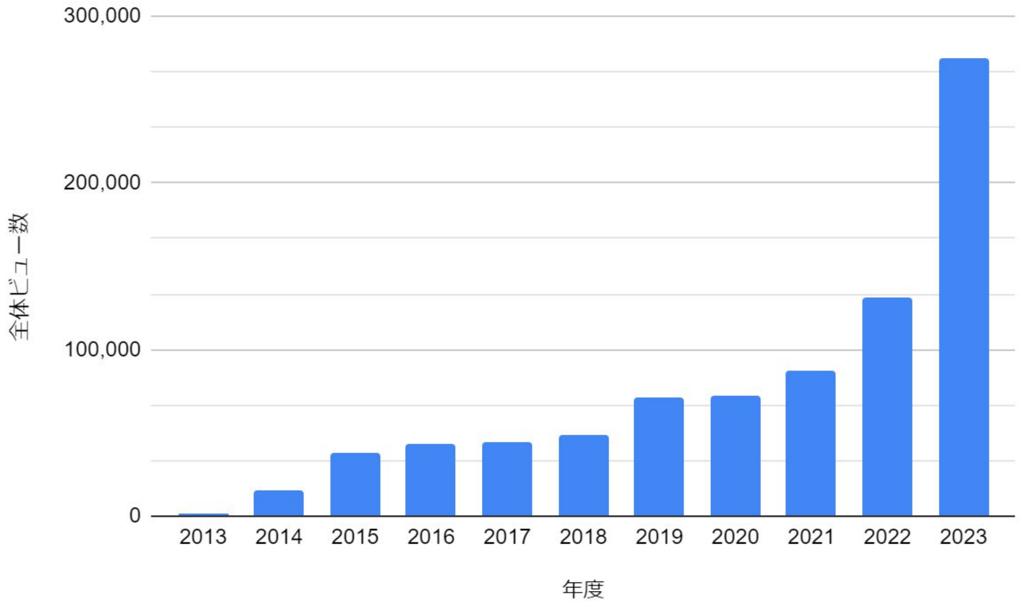
EngineerDrivenの一環として、技術blogを推進しています。
現在、年間**20万PV/600本以上の記事掲載**（2023年実績）を誇る会社オフィシャルの技術ブログを運営。
Microsoft AzureやKubernetes、Platform Engineeringなど取り扱う技術は多彩。

また、エンジニアが技術ブログを作成しやすい環境を整えるため、以下が整備されている。

- 技術ブログ執筆が業務時間内で執筆してよい（プロジェクトとは別工数で確保）
- Microsoft Build / Ignite や KubeConなどグローバルイベントが開催されるタイミングでは
  リアルタイムレポートできる体制を事業部内で調整
- 検証環境などの払い出し

techblog APC
powered by APCommunications

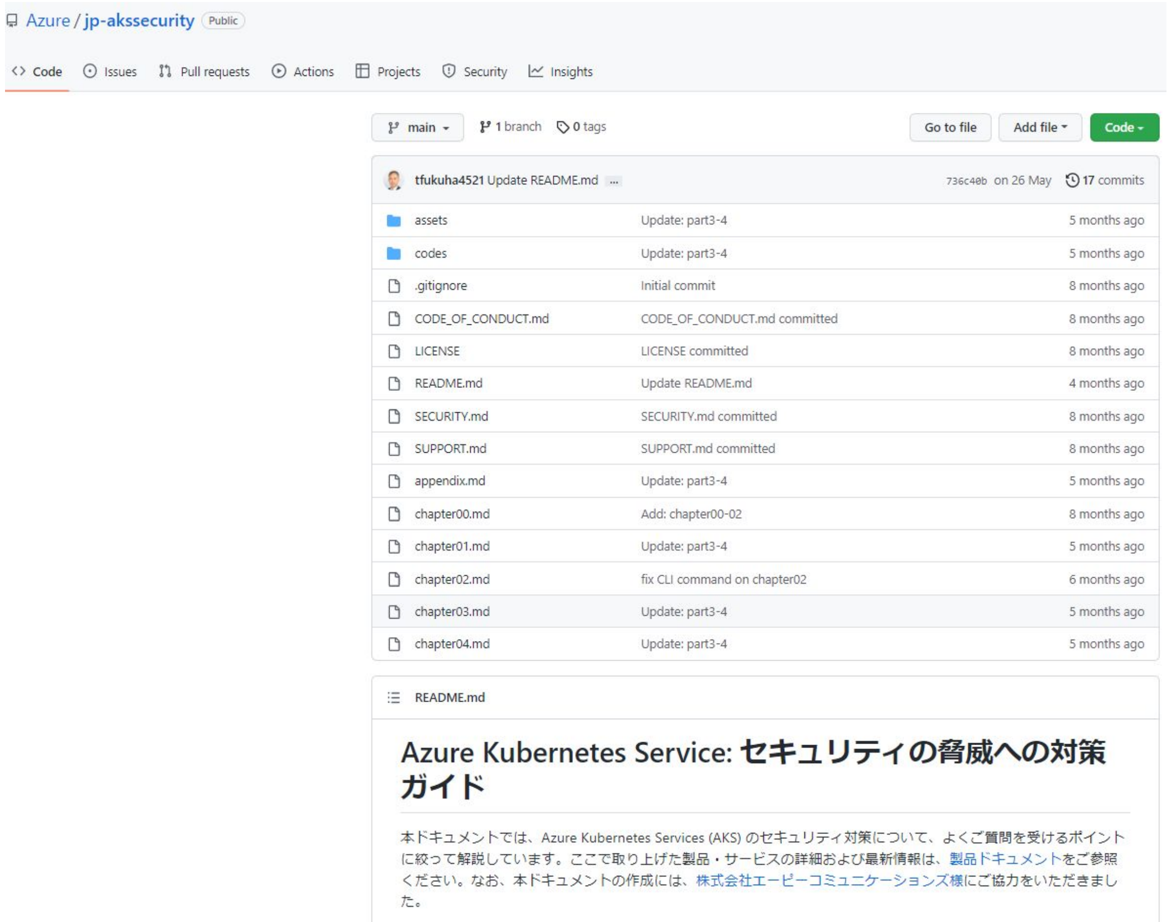
[会社技術ブログ]
「APC 技術ブログ」で検索



年間PV推移

技術のアウトプット例②：Microsoft様との技術文章共同執筆

Enterpriseなセキュリティ要件を満たすAKS、DevSecOpsに関するホワイトペーパーをMicrosoft様と共同執筆。
全4章のボリュームで構成され、有識でない方でも理解できることを念頭においた
チュートリアル中心（サンプルコード付）の設計ガイドライン。



1章：AKSネットワーキングとセキュリティ

Azure Kubernetes Service (AKS) のネットワーク構成の特徴について説明をした上で、セキュリティ対策のポイントと具体的な参照アーキテクチャを紹介する

2章：セキュリティイベントのモニタリング

Microsoft Defender for Cloud 及び Microsoft Defender for Container を用い AKS 上の運用に際し発生のログをセキュリティの観点でモニタリングする手法を紹介する

3章：秘匿情報の管理

Azure Key Vault を用い、データベースのパスワードなど管理に注意が必要な秘匿情報を適切に管理する手法について説明する

4章：セキュアなCI/CDパイプラインの構築

Microsoft Defender for Containers を用い CI/CD パイプラインのセキュリティ性を高める手法を紹介する

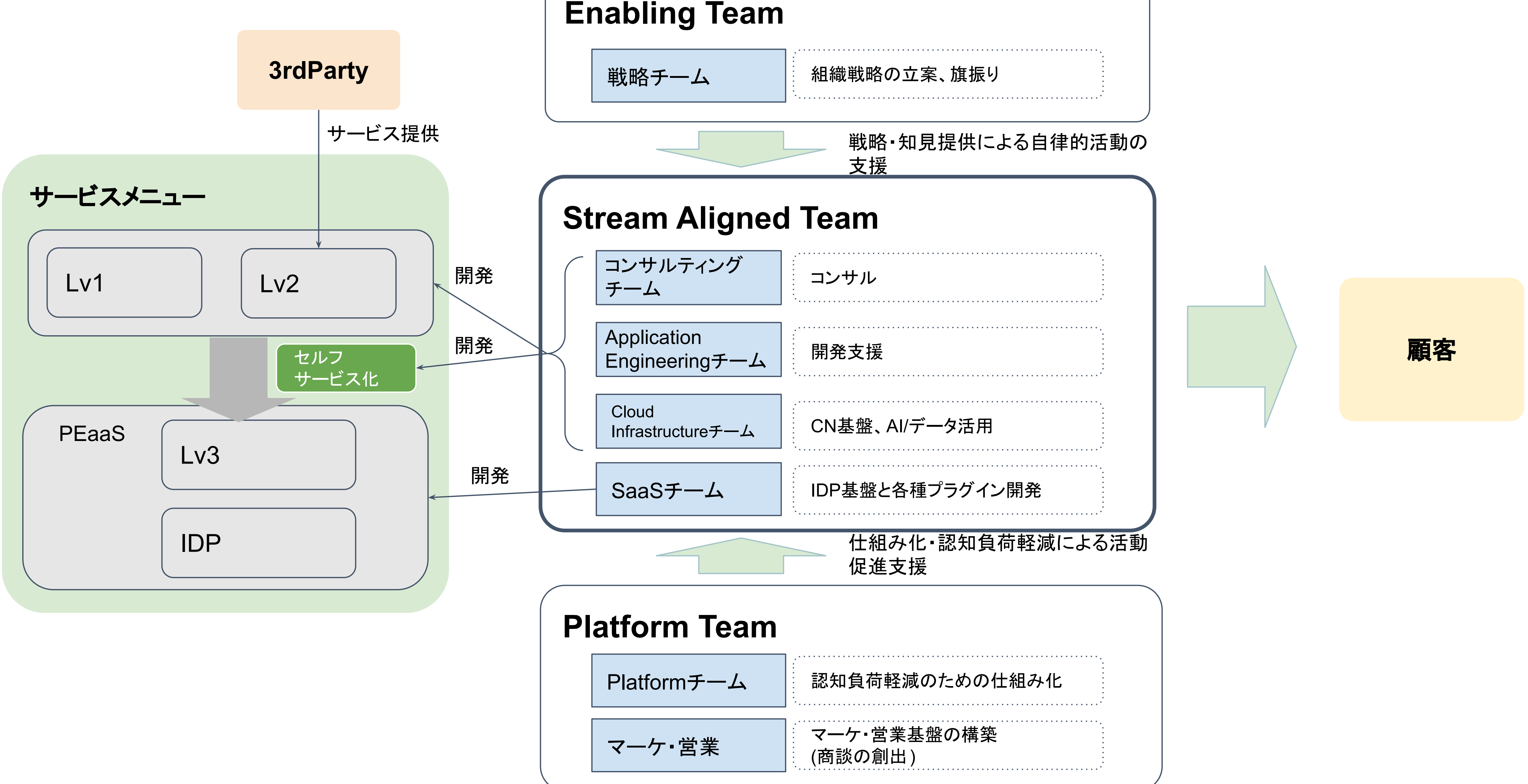
有償トレーニングとして出してもよいぐらいの出来

Microsoft CSA担当者様

Microsoftセキュリティ担当の方からこちらの資料を紹介されました

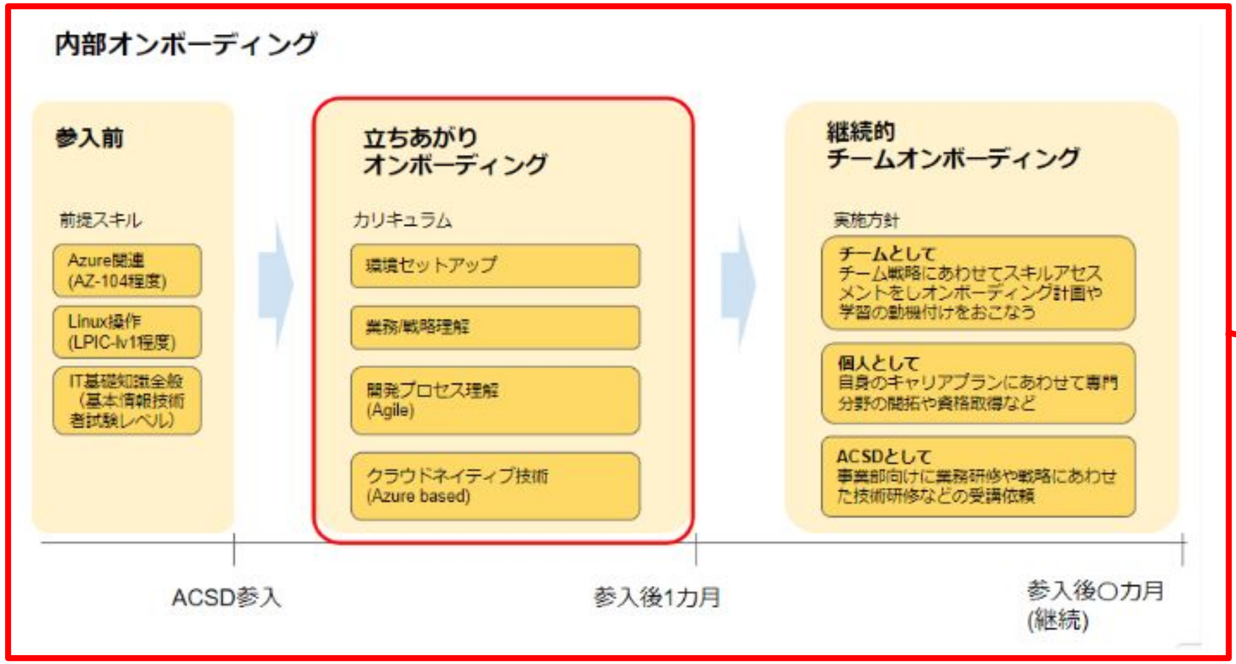
弊社顧客ユーザー様（AKS利用中）

組織と役割のイメージ

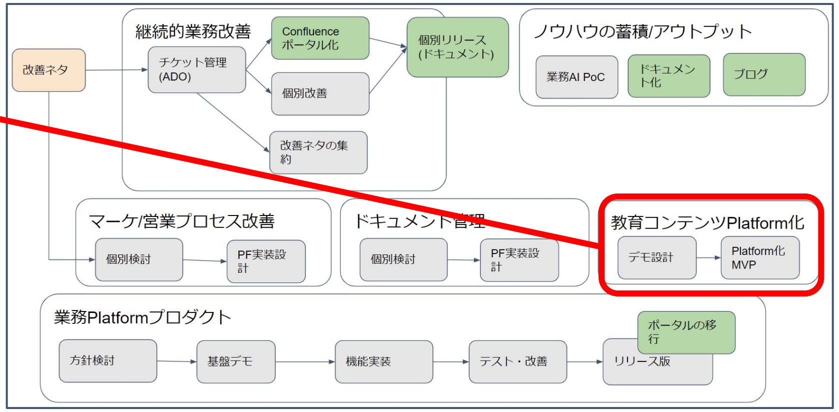

3rdParty
サービス提供
サービスメニュー
Lv1
Lv2
セルフ
サービス化
PEaaS
Lv3
IDP
開発
開発
開発
Enabling Team
戦略チーム
組織戦略の立案、旗振り
戦略・知見提供による自律的活動の
支援
Stream Aligned Team
コンサルティング
チーム
コンサル
Application
Engineeringチーム
開発支援
Cloud
Infrastructureチーム
CN基盤、AI/データ活用
SaaSチーム
IDP基盤と各種プラグイン開発
仕組み化・認知負荷軽減による活動
促進支援
Platform Team
Platformチーム
認知負荷軽減のための仕組み化
マーケ・営業
マーケ・営業基盤の構築
(商談の創出)
顧客

新規参入者の立ち上がりオンボーディング施策

新規参入者向けのオンボーディング施策を準備し、施策を通してストレスなく業務対応を可能にすることを目指しています。具体的には「組織の価値観」「戦略」「ルール」「プロセス」などを学ぶとともに、組織としての品質維持のため技術レベルを一定に保つためのプログラムです。
また、チームメンバーとの相互交流の為、事業部員全員の「パーソナルマップ」というツールを利用した歓迎会も実施しています。



立ち上がりオンボーディング施策



Platformチーム活動イメージ

面接官

面接官は主にリーダーの3名です。

■ACS事業部長　取締役　上林

Azureのクラウドネイティブ/データ/AI事業を一緒に成長させて欲しい!

https://www.ap-com.co.jp/blog/archives/9264

■DX Enabling部　部長　東出(コンサルティングチーム・Application Engineeringチーム)

お客様のDXをサポートすることで日本の景気回復に寄与したい！

https://www.ap-com.co.jp/blog/archives/9269

■Cloud　Infrastructureチーム　エンジニアリングマネージャー　土居

クラウドネイティブ内製化とPlatform Engineeringの推進がミッション！

https://www.ap-com.co.jp/blog/archives/9273

事業部の推しメン

■ACS事業部　SaaSチーム　大久保

大久保 直紀：0からのモノづくり力が推しポイント

https://www.ap-com.co.jp/blog/archives/10232#article

■DX Enabling部　髙井

髙井比文：「圧倒的成長」と「ポジティブさ」が推しポイント

https://www.ap-com.co.jp/blog/archives/10126#article

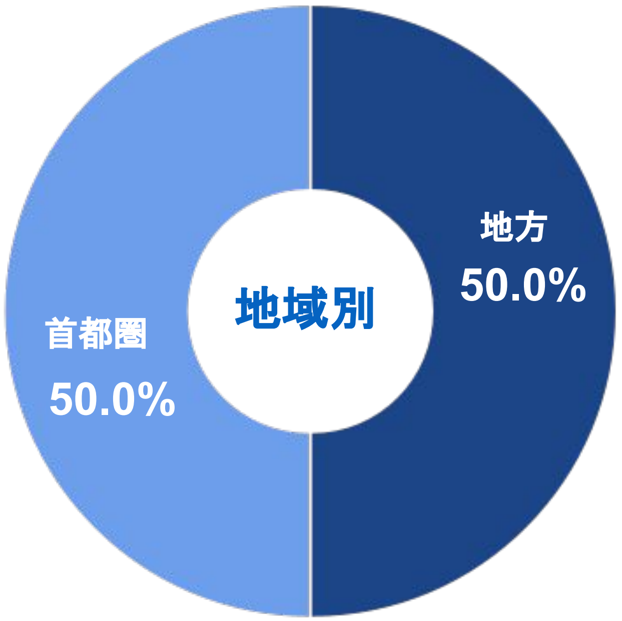
■Cloud　Infrastructureチーム　吉川

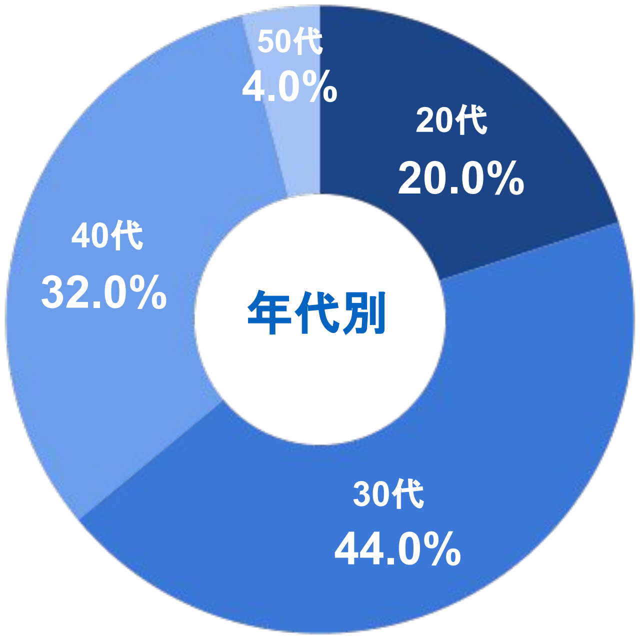
吉川俊甫：熱心な自己研鑽とコミュニティでの活躍が推しポイント

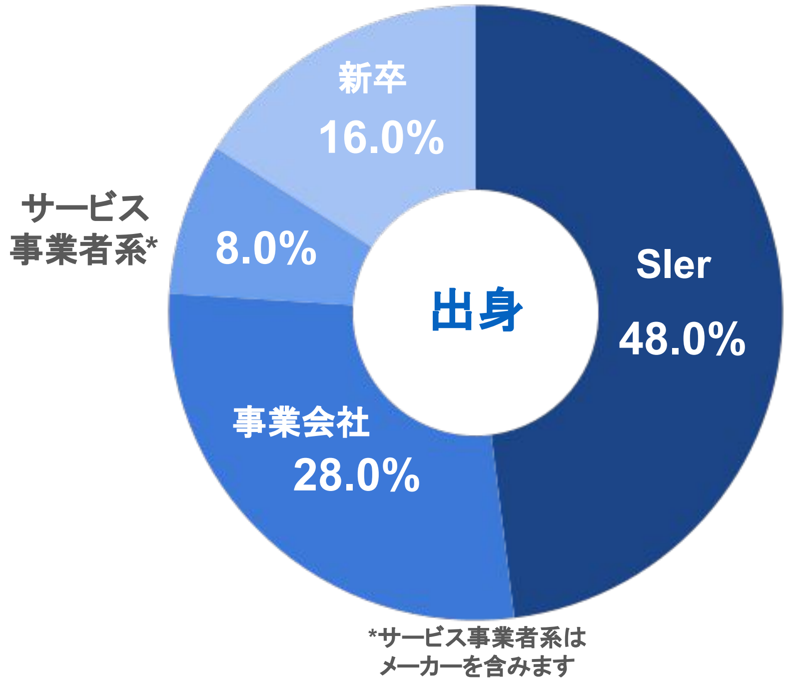
https://www.ap-com.co.jp/blog/archives/10079#article

メンバー構成比率

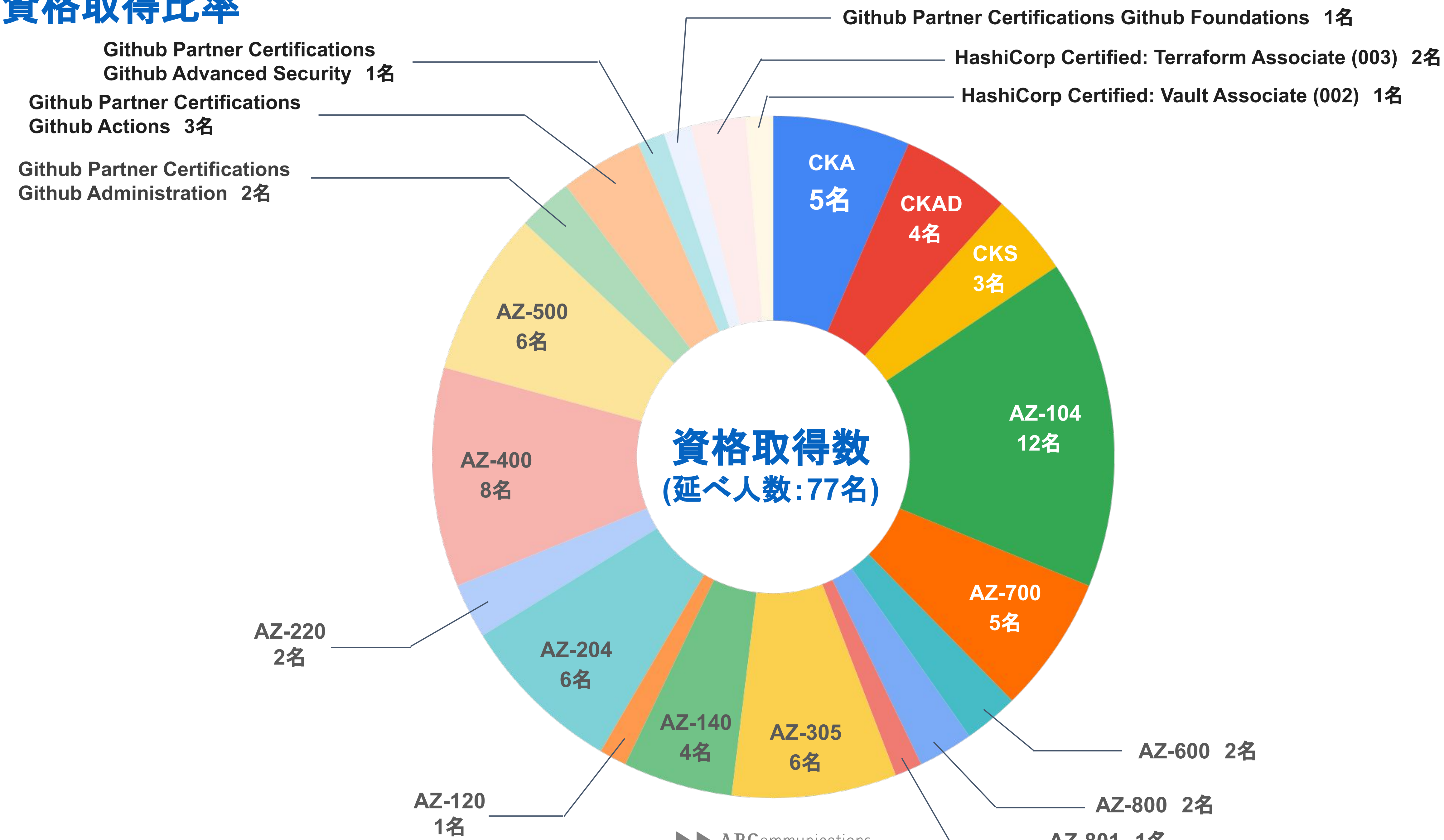
事業部メンバーの構成比率は以下の通りです。







資格取得比率


Github Partner Certifications Github Foundations 1名
HashiCorp Certified: Terraform Associate (003) 2名
HashiCorp Certified: Vault Associate (002) 1名
Github Partner Certifications
Github Advanced Security 1名
Github Partner Certifications
Github Actions 3名
Github Partner Certifications
Github Administration 2名
CKA
5名
CKAD
4名
CKS
3名
AZ-104
12名
AZ-700
5名
AZ-600 2名
AZ-800 2名
AZ-801 1名
AZ-305
6名
AZ-140
4名
AZ-120
1名
AZ-204
6名
AZ-220
2名
AZ-400
8名
AZ-500
6名
資格取得数
(延べ人数:77名)

フルリモートワーク環境

地方在住でも活躍できる!!
ライフステージの変化とキャリア形成に悩むエンジニアへ

事業部内で活躍するエンジニアのインタビュー記事
https://www.wantedly.com/companies/apcommunications/post_articles/340973

事業部では、全メンバーが原則フルリモートで仕事をしています。
首都圏以外の地方から参画するメンバーも多く、成果に応じた昇給ができるため働く場所によるハンデはありません。

コミュニケーション

ACS事業部では現在も今後も、**原則フルリモート**での運営を意思決定しています。

フルリモート勤務で地方から参画しているメンバーも多いため、コミュニケーションには最新の注意を払い設計しています。
非同期コミュニケーション、同期コミュニケーション、参加型イベントなどがあります。

非同期コミュニケーション

- Slack による日常チャット
- Azure DevOps / GitHubによるタスクやIssueに対するComment

同期コミュニケーション

- Google MeetによるWeb会議（顔出し）
- Slack huddleによる雑談
- 1 on 1

参加型イベント

- 朝会，夕会，定例会議（KPTや戦略対話会など）
- 事業部キックオフ（年数回の本社にオフラインで集まる）
- Win Session
- All Hands Meeting（全社員向けライブ配信総会）
- 各種技術勉強会

etc …

Ⅴ. 組織/人事制度

人事制度＜全社＞

評価制度の透明性を保つために評価のルールから運用方法まで詳細に記載したマニュアルを全社員に配布しており、納得感のある評価制度を設けております。（右の画像）

評価は7つの項目を元に行われますが、7つの内「最も強みのある能力」を評価します。
※以前は「平均値」を最終評価としておりましたが、より尖った人材を評価するため2020年10月より本評価基準への変更と査定機会数の変更（年1回→年4回）を行いました。

評価項目	評価
技術力	5
成果	3
ニーズ把握力	2
問題解決力	3
コミュニケーション力	3
事業貢献力	3
情熱	4
最終評価	5

・TPC制度
評価者がメンバーの変化を直接捉えることが難しい場合の「補完」をする制度です。
申請者が自身の成果等を直接人事に申請することができ、市場評価検討委員会（第三者）にて市場価値の算出を行います。

その後経営会議にて協議を行い。給与に反映される仕組みです。
※協議の結果否認されることもあります。
市場価値に関するFBは承認/否認に関わらず本人に共有されるため、その後のキャリア形成に活かすことが可能です。

人事制度＜全社＞

等級毎の基本給

号	等級 1	等級 2	等級 3	等級 4
8				365,000
7				350,000
6				335,000
5	207,500	245,000	282,500	320,000
4	200,000	237,500	275,000	312,500
3	192,500	230,000	267,500	305,000
2	185,000	222,500	260,000	297,500
1	177,500	215,000	252,500	290,000

号	等級 5	等級 6	等級 7	等級 8	等級 9
5	520,000	595,000	670,000	815,000	965,000
4	505,000	580,000	655,000	785,000	935,000
3	490,000	565,000	640,000	755,000	905,000
2	475,000	550,000	625,000	725,000	875,000
1	460,000	535,000	610,000	695,000	845,000

Ⅵ. 福利厚生

<全社> 背景

「社員に寄り添う」がコンセプトの福利厚生制度
“With APC”

For WorkPlace
(社員の働く環境に寄り添う)
・地方リモート勤務制度
・住宅補助(新卒)
・在宅勤務手当
・コワーキングスペース

For Health
(社員の健康に寄り添う)
・復職支援
・健康診断
・健康診断 通院支援制度
・傷病見舞金制度

For SecondStage
(社員の人生に寄り添う)
・確定拠出年金制度
・定年後再雇用制度
・投資勉強/FP相談

For Self-Study
(社員の学習へ寄り添う)
・書籍購入(技術書)
・資格受験費

For Onbparding
(社員の仕事へ寄り添う)
・入社サポート休暇
・異動時フォロー

For Family
(社員の家族へ寄り添う)
・結婚出産のお祝い
・社員の子供の節目でお祝い

For LifeCare
(社員の生活へ寄り添う)
・介護支援制度
・育児支援制度

For Refresh
(社員の休みに寄り添う)
・リフレッシュ休暇
・各種休暇制度

今後も続々
リリース予定

<全社> With APCの例

「育児休業取得奨励金」制度を開始
https://www.ap-com.co.jp/blog/archives/9181

お子様の入学お祝い制度”For Kids”を開催！
https://www.ap-com.co.jp/blog/archives/9196

フルリモート勤務制度
https://www.ap-com.co.jp/blog/archives/8404

<全社> 休暇･社会保険･手当

勤務時間	所定労働時間 7.5時間
休日・休暇	日曜, 土曜, 祝日, 夏季, 年末年始, 介護, 育児, 産前・産後, 慶弔,リフレッシュ等、年間休日120日以上 <入社サポート休暇制度> 初回の有給休暇付与までの期間で、入社後慣れない環境により体調を崩したり公的な手続きの実施が必要な場合に取得できます。
賃金形態	日給月給制
時間外労働	有 ※1分単位で手当支給 ※管理職、同等レベルの等級以上はみなし40H/月となります ※固定残業金額は等級・役職によって異なります
賃金（その他手当）	・家族手当（配偶者）：月額15,000円 ・家族手当（子供）　：1-2人目は月額5,000円 3人目以降は月額10,000円/人 ・通勤手当：上限35,000円/月 ・在宅勤務手当：1日4時間以上のテレワークで1日200円 ・社員紹介手当：10,000円/月（新卒者1名） 20,000円/月（経験者1名） ※月額上限10万円 ※最大3年間継続支給 など
昇給	年4回の査定機会あり ※年4回の査定期間内に上長との1on1等をもとに、各個人が昇給申請を行います。 年4回必ず査定をする制度ではありません。

福利厚生	各種社会保険完備 企業型確定拠出年金制度 契約保養施設利用可 福利厚生倶楽部利用可 部活動支援制度「apclub」 その他イベント
取り組み	エーピーコミュニケーションズでは働き方/性/人種/思想の多様性を尊重し、社員が働きやすい環境作りを行っています。 ホワイト企業認定を４年連続更新し続けています。 https://jws-japan.or.jp/recognition/ 東京レインボープライドに協賛しています。 https://tokyorainbowpride.com/
平均残業時間	20.5時間 ※2022年の平均
在宅勤務実施率	92% ※部分的に在宅勤務をしている社員含む

業務環境など

業務PC

・開発環境
WindowsOS/MacOsが個人の意思で選択可能です。

・開発支援ツール
2023/7現在、GithubCopilotやChatGPTの配布を実験中

クラウド

・クラウド環境
事業部独自のAzureのクラウド環境が、利用可能です。
(ご利用は計画的に)

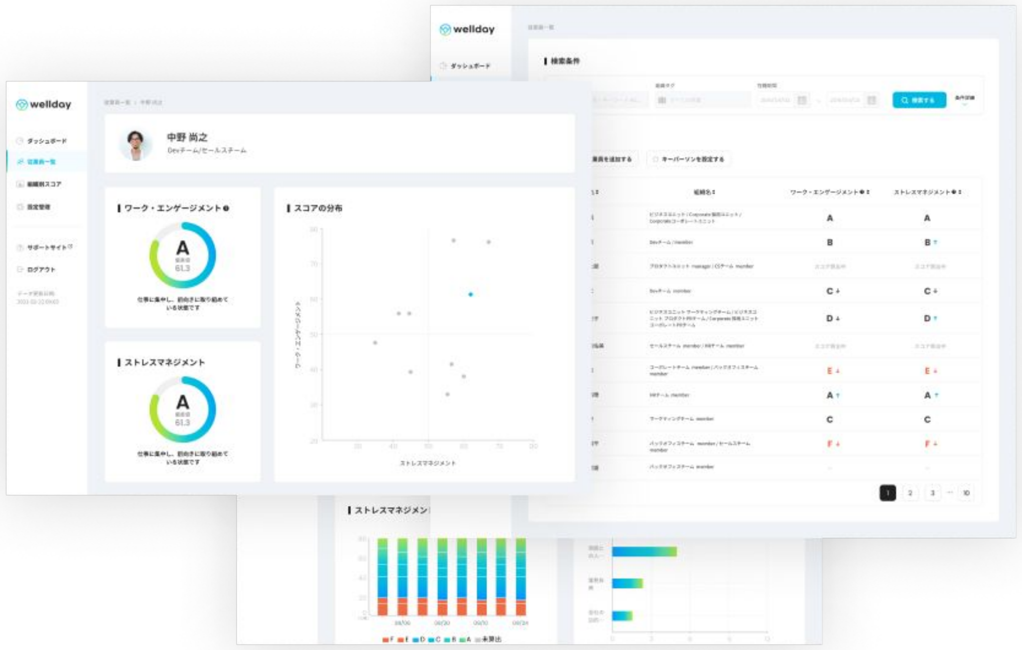
リモートワーク支援

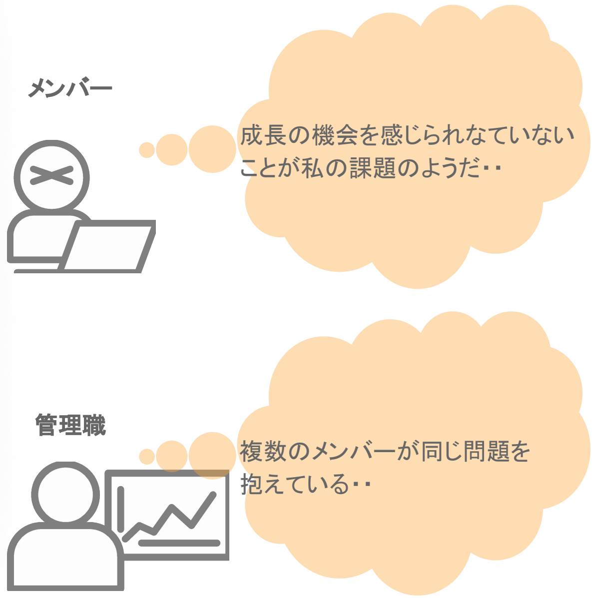
・在宅勤務手当(全社)
在宅勤務時に発生する光熱費やインフラ費用の一部を会社で負担する制度として、原則、在宅勤務を1日あたり4時間以上実施した場合に1日分の手当200円を支給します。

エンゲージメントサーベイ

自律を促すマネージメントと仕事へのエンゲージメントを高めるために、wellday というツールを試行運用中(2023/7現在)

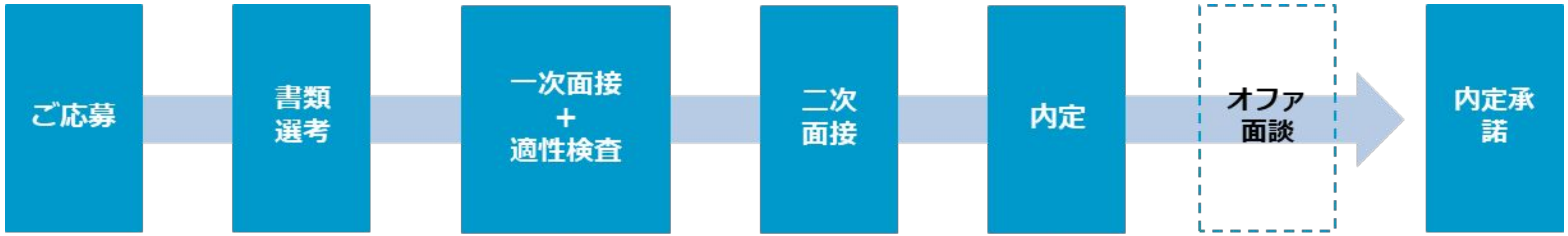
- メンバーと管理職のそれぞれが、個人とチームのコンディションを定量的に把握





Ⅶ. 採用プロセス

採用フロー



- 一次面接の日程が確定した後、適性検査のご案内と一緒に下記のURLをお送りしますので、ご対応をお願いします。

①エントリーシート：面接で今後のキャリアをお伺いする際に参考にさせていただきます。

②個人情報利用の同意書：選考にあたり個人情報の利用について記載した書類です。

- 内定後は一週間後を目途に回答いただけると幸いです。回答期限についてご希望がある場合は柔軟に対応させていただきます。

- 他社と迷われている場合はオファー面談にて懸念点の解消を行いますので、お気軽にご相談ください。